

全国都市緑化かわさきフェア基本・実施計画（案）



2023（令和5）年8月7日

川崎市市制100周年記念事業・全国都市緑化かわさきフェア実行委員会

1 基本的事項

(1) かわさきフェア開催の背景と目的	2
(2) 市制100周年記念事業について	3
(3) みどりのまちづくりに向けて	4
(4) 取組姿勢・目指すべき将来像	5
(5) 基本理念	6
(6) みどりのまちづくりの実現に向けた考え方	7
(7) みどりのまちづくりの展開と将来のイメージ	11
(8) かわさきフェア開催概要	19
(9) かわさきフェア基本・実施計画の基本的な考え方	20
(10) 開催のコンセプト・基本方針	21

2 協働推進	22
3 観客誘致・広報宣伝	30
4 協賛	35
5 会場	38
6 出展展示	61
7 植物調達・管理	63
8 行催事	65
9 飲食・物販	73
10 会場運営・管理	75
11 交通輸送	78

1 – (1) かわさきフェア開催の背景と目的

川崎市は、令和6（2024）年7月に市制100周年を迎えます。

これまで、豊富な水資源を背景に、臨海部を中心に工業が発展するとともに、徐々に北部に向かって都市が開発され、多くの樹林地が失われ、それと引き換えに利便性の高い都市が生まれてきました。

今、川崎市では、環境先進都市として持続的な発展を目指し、積極的にSDGsの達成や脱炭素社会の実現に寄与する取組を進めています。

また、近年では社会状況や市民のライフスタイルの変化に伴い、暮らしの中にみどりを取り入れる動きが広がるなど、みどりの価値が大きく見直されています。

これまでの川崎の100年を振り返り、これからの川崎をどのようなまちにしていくのか？

川崎だからできることって何なのか？

そして、みどりが持つ力を使って、川崎らしく、次の100年により豊かな環境をどうつないでいくのか？

緑化フェアは、こうした川崎のみどりの歴史、資源、強みなどを活かし、改めてみどりについて市民の皆さまと一緒に考え行動することで、川崎の新たなみどりの文化を醸成し、誰もが住み続けたいまちへとつなげていく、そのための大きなチャンスであると考えます。

高度に都市化が進んだ川崎市で開催することで、“川崎らしいみどり”を全国に向けて発信していきます。



<かわさきフェア開催の意義>

- 1 市民が暮らしの中で、積極的にみどりを取り入れるためのきっかけをつくること
- 2 みどりに関する機運を高め、市民の行動につなげていく契機とすること
- 3 市民の行動が新しい川崎のみどりの文化を育み、誰もが住み続けたいまちにつなげていくこと

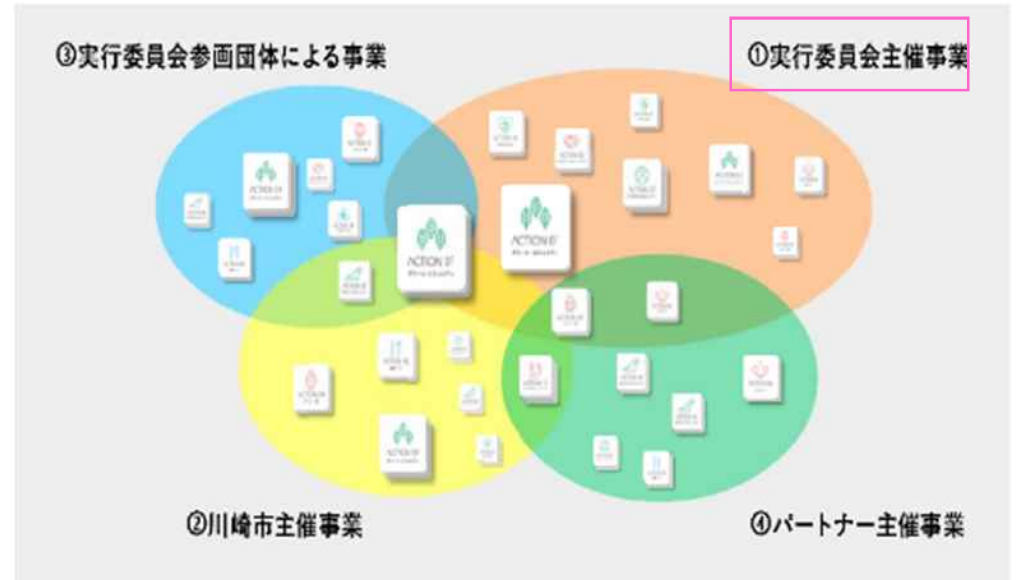
1 – (2) 市制100周年記念事業について

- 令和6（2024）年に迎える川崎市制100周年の歴史的な節目に、川崎市ブランドメッセージ「Colors,Future!いろいろって、未来。」を事業コンセプトとし、ブランドメッセージが意味する「多様性を認めあい、つながりあうことで、新しい魅力や価値を生み出すことができるまちを目指していく」ことを実現する機会とします。
- このコンセプトを具現化する場の設定や活動を記念事業プラットフォーム「Colors, Future! Actions」と総称して、市民一人ひとり・企業・団体等が自由に参加できる活動の場を設けます。
- 15のActionラベルを目印として、市内のさまざまな主体が重なりあい、つながりあいながら「Colors, Future! Actions」を展開します。
- 市制100周年記念事業の**象徴的事業として「全国都市緑化かわさきフェア」を令和6（2024）年度に開催**します。

【記念事業の分類】

大きく分けて、以下の4つの事業により実施していきます。それぞれの主体が連携し、関連しながら事業を展開します。

市制100周年を機に、
川崎市を「知って関わって好きになってもらう」取組を推進
⇒シビックプライド（川崎への愛着と誇り）を醸成



1 - (3) みどりのまちづくりに向けて

緑には、環境保全、レクリエーション、防災、景観形成などの主要な機能や効果がある他、自然環境教育、中心市街地活性化、観光、産業振興、健康福祉、子育て・情報交換等の場としての多様なポテンシャルがあります。

多発する自然災害や新型コロナウイルス感染症の影響など社会状況が大きく変化する中で、緑とオープンスペースにおいては、従来のコミュニティ活動の場やグリーンインフラ、人々のストレス緩和や運動不足の解消など健康的に過ごせる場としてだけでなく、テレワークのスペースやフィットネス等での利用、キッチンカーの配置による賑わいの創出など、利用形態の多様化や柔軟な活用に対するニーズが高まっています。

こうしたことから、緑を取り巻く社会状況の変化や市民ニーズの多様化に柔軟に対応しながら、緑の機能を十分に発揮させるとともに、その多様な効果を実感できるようにする必要があります。

かわさきフェアでは、生物多様性がもたらす水や空気の浄化、食料や資源の供給、暑熱化の緩和、人々の心を豊かにして安心感をもたらすといった、多様な機能と効果を含めて「みどり」として捉えています。

みどりが持つ多様なポテンシャルを、川崎の共有の財産として認識するとともに、みどりが持つポテンシャルを最大限に活用して、みどりの多様な効果が実感でき、人々が暮らしやすく住み続けたいまちとするため、市民や企業、行政などの多様な主体が将来像を共有しながら、みどりのまちづくりに取り組んでいくことが重要です。

みどりのまちづくりに取り組むにあたっては、一人ひとりが持続可能なまちづくりなどのSDGsの趣旨を十分に理解しつつ、目指すべき将来像を描きながら取組を進める必要があります。また、市民や企業、団体など多様な主体との連携を図りながら、経済・社会・環境の三側面の調和や統合的な向上を目指した取組を推進することが重要です。



1 - (4) 取組姿勢・目指すべき将来像

昨今の社会状況の変化等を踏まえ、かわさきフェアを契機として、みどりが持つポテンシャルを最大限に活用して、ウェルビーイング※を実現し、住み続けたいと思いつけるようなまちをつくるため、目指すべき将来像を設定します。

その将来像の実現を目指し、かわさきフェア開催以降にもつながる様々な取組を、かわさきフェア開催前から展開していきます。

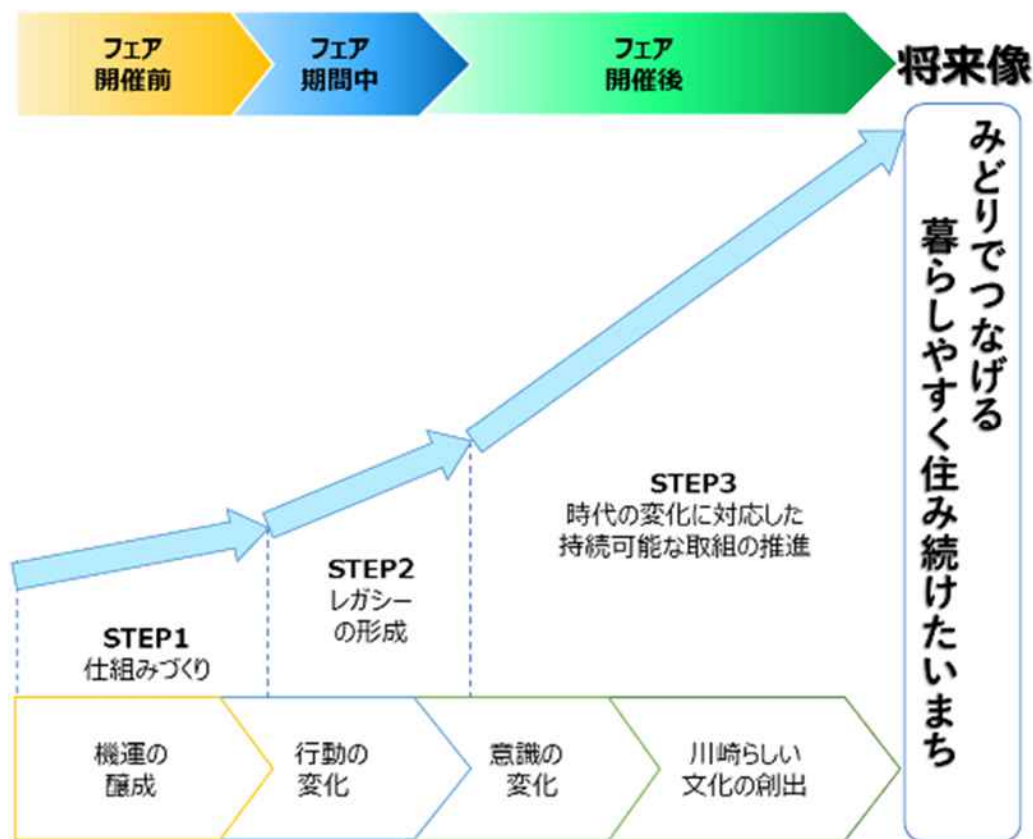
※ウェルビーイング

現代的ソーシャルサービス(社会福祉事業)の達成目標として、個人の権利や自己実現が保障され、身体的、精神的、社会的に良好な状態にあることを意味する概念。昭和21(1946)年の世界保健機関(WHO)憲章草案において、「健康」を定義する記述の中で「良好な状態(well-being)」として用いられた。最低限度の生活保障のサービスだけでなく、人間的に豊かな生活の実現を支援し、人権を保障するための多様なソーシャルサービスで達成される。(出典:「知恵蔵」(株)朝日新聞出版発行)

将来像

みどりでつなげる、暮らしやすく住み続けたいまち

＜目指すべき将来の実現に向けた展開イメージ＞



1 - (5) 基本理念

かわさきフェア開催の意義を踏まえ、次の100年に向けて、川崎の持つ多様なみどりの力を使って、川崎の強みを活かしながら、川崎の持続的な発展を目指していくため、基本構想を踏襲し、基本理念を設定し以下に示します。

<基本理念>

- I. かわさきフェアは、「みどりが持つ力を、未来の川崎に向けて、みんなが暮らしの中で上手に活用する取組」を推進します。
- II. 川崎の多様な人・暮らし・みどりを結びつけることで、フェア終了後も続く「みどりのムーブメント」を推進します。
- III. かわさきフェアのレガシーとなる地域愛を持った市民が、次の100年に向けて、川崎らしくより豊かな環境をつないでいきます。

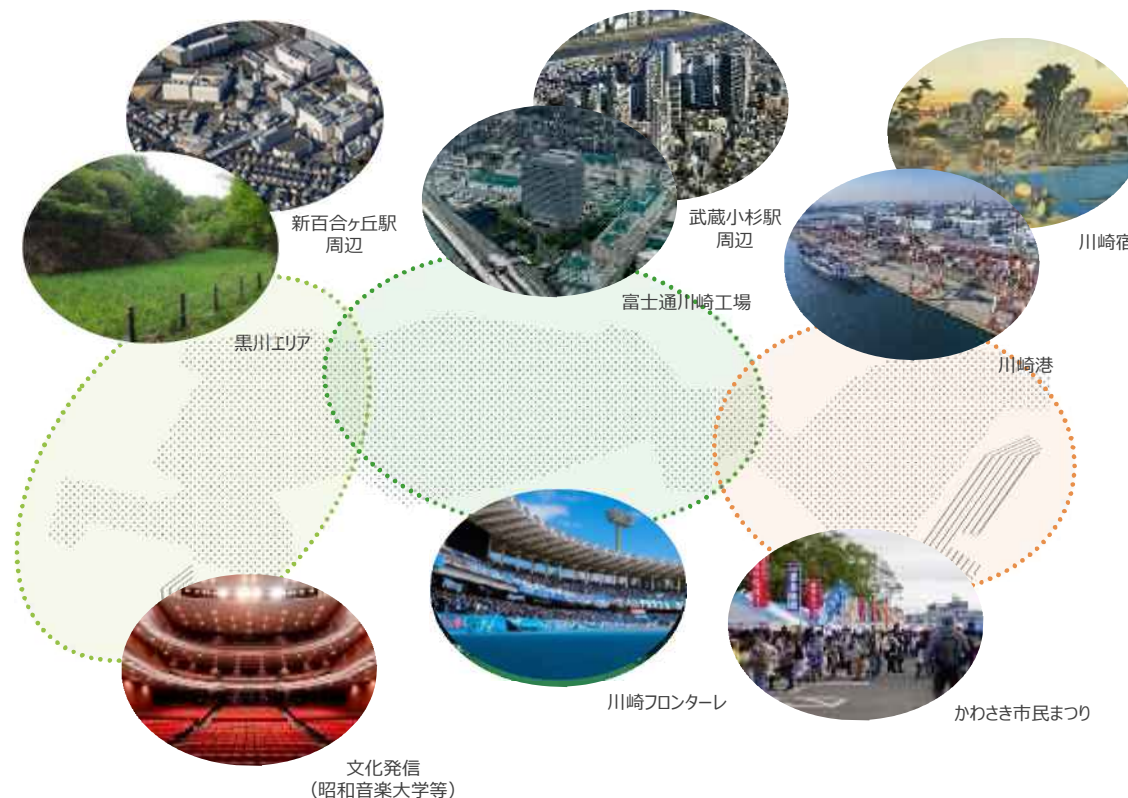
ア 川崎市の特徴

川崎市は、遡れば江戸時代の東海道川崎宿などをルーツとし、港湾/工場/農業といった産業を主軸として近代化を実現してきました。

また、東京都心部に対するベッドタウンとしての役割も担っています。

さらに、音楽、映画、スポーツ、祭りなど、川崎らしい文化資源も多くあり、南部から北部まで、まちなかの緑や公園緑地、樹林地、河川、農地などの多様なみどりを有しています。

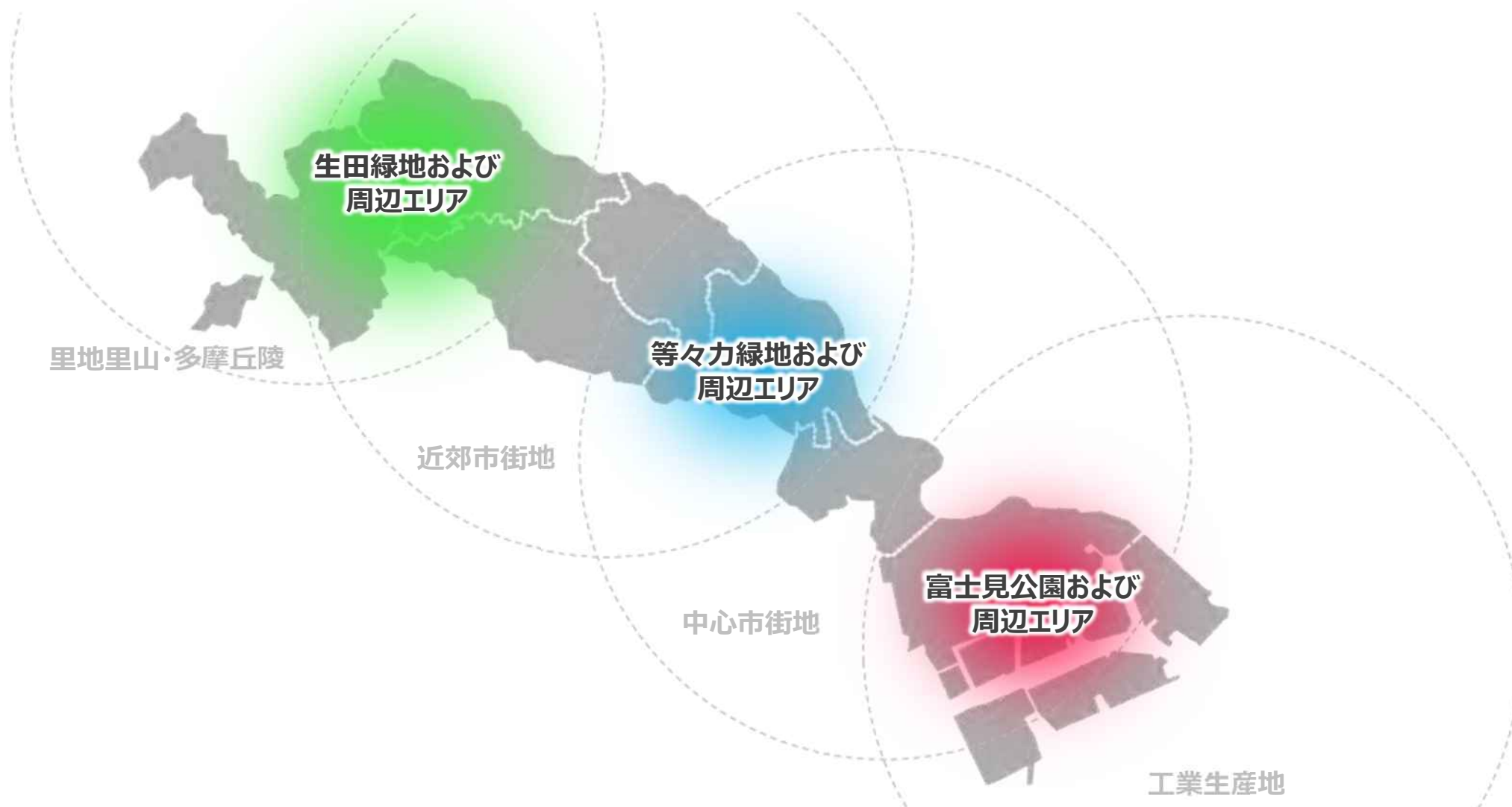
これらの特徴は、市内の各地域の特性に応じて発展してきた歴史があり、地域ごとのイメージとしても定着しています。



1 - (6) みどりのまちづくりの実現に向けた考え方

イ 市内全域で進めるみどりのまちづくり

川崎市は工業生産地から里地里山までの様々な特性をもった地域が共存しています。特色の異なる3つの総合公園とその周辺エリアを中心として、市内の身近なみどりとオープンスペースにおける日常の活動や取組の充実を図り、市内全域でみどりのまちづくりを進めていきます。



ウ みどりの役割

《みどりの特性や役割》

みどりは、環境を良くする。



緑化の量を増やすだけでなく、バイオフィリックデザイン、レインガーデンやエディブルガーデンなどの工夫により、都市空間の環境性能が向上する



みどりは、人をつなげる媒介になる。



花を育てることや野菜を収穫することなど、みどりを介して人と人がつながるためのキッカケが生まれる



みどりは、新しい風景をつくる。



街全体が彩られる、人々が花を持って歩いている、緑豊かな公園の中で活動するなど、工夫次第で新しい風景やライフスタイルが生まれる



※「みどり」の考え方

かわさきフェアでは、生物多様性がもたらす「基盤サービス」（光合成、栄養循環、水や空気の浄化）・「供給サービス」（食料や資源の供給）・「調整サービス」（暑熱化の緩和や災害軽減）・「文化的サービス」（精神充足、レクリエーション）の4つの「生態系サービス」も含めた多様な機能と効果を「みどり」として捉えるものとします。

なお、漢字の“緑”は川崎市緑の保全及び緑化の推進に関する条例第2条第1項に基づき、樹木等の植物、樹林地、水辺地、農地等の自然環境を有する土地及び空間並びにそこに生息する動植物の育成基盤である土、水等の自然の要素とします。

エ みどりに関するアクションメニュー

右に例示するアクションを川崎市全体に波及させることを目指しながら、地域の特性に応じた具体的なアクションを検討します。



1 - (7) みどりのまちづくりの展開と将来イメージ

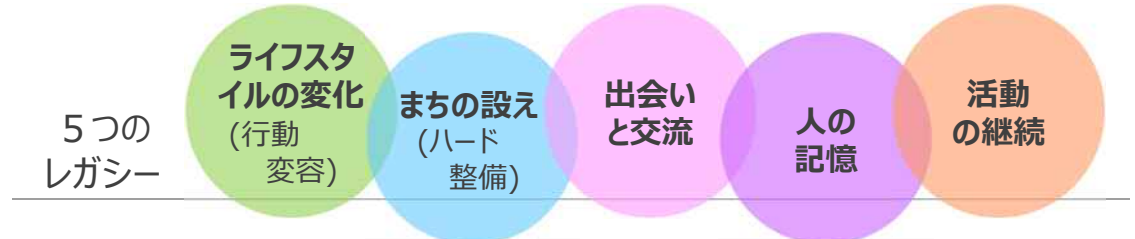
【市制100周年を節目に「あたらしい川崎」を生み出していくため、緑化フェアのレガシーによるみどりのまちづくりを展開】



緑化フェア

● 100周年記念事業の象徴的事業として、令和6年秋・春に開催。 秋 10月19日(土)～11月17日(日) 春 3月22日(土)～4月13日(日)

● フェアを契機に、レガシーとして広がっていくことを目指して各種取組を展開。



日常的に憩い、集い、賑わうみどりとオープンスペースを創出

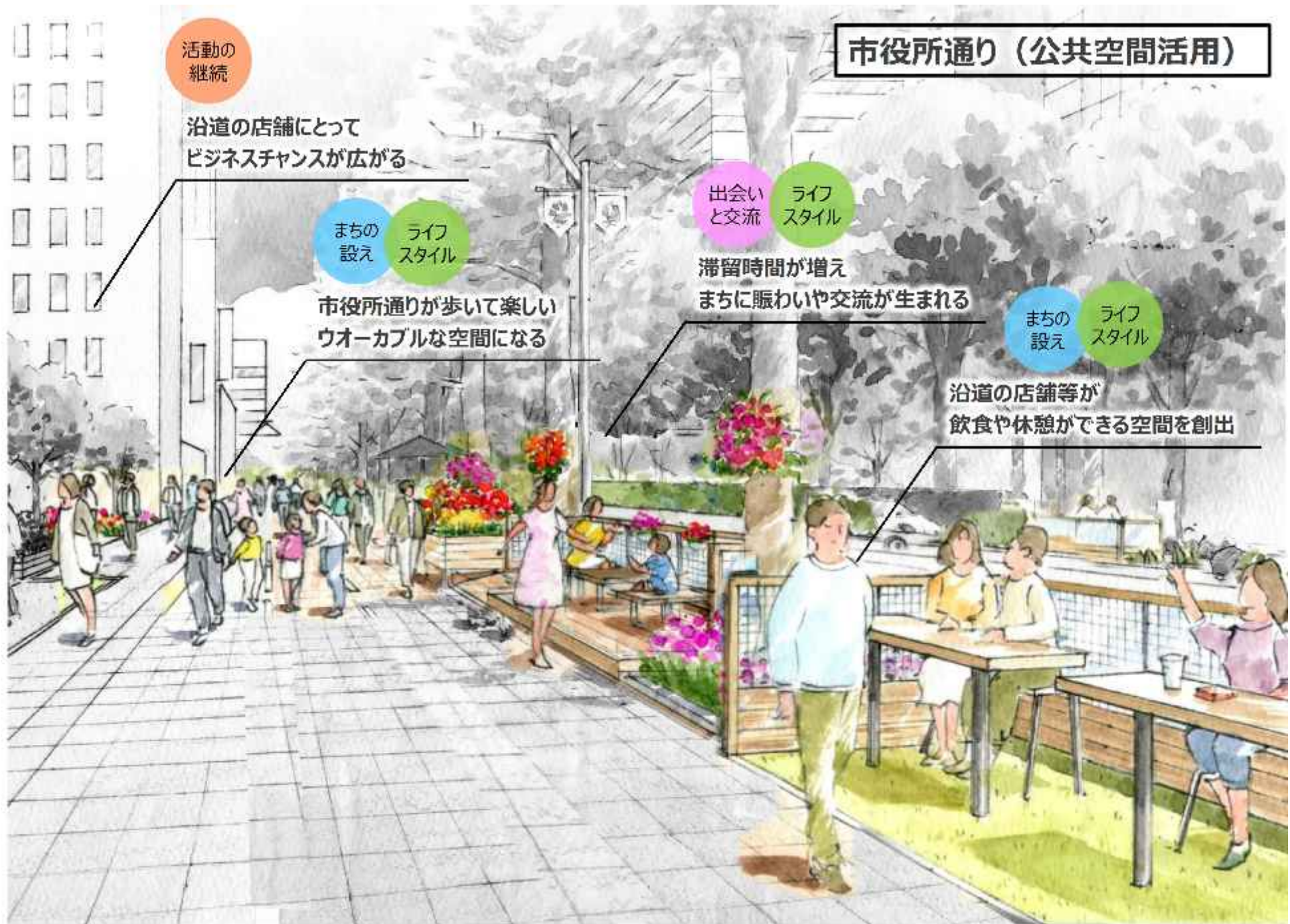


日常の中にみどりが溶け込み、みどりを通してつながりを生み出す

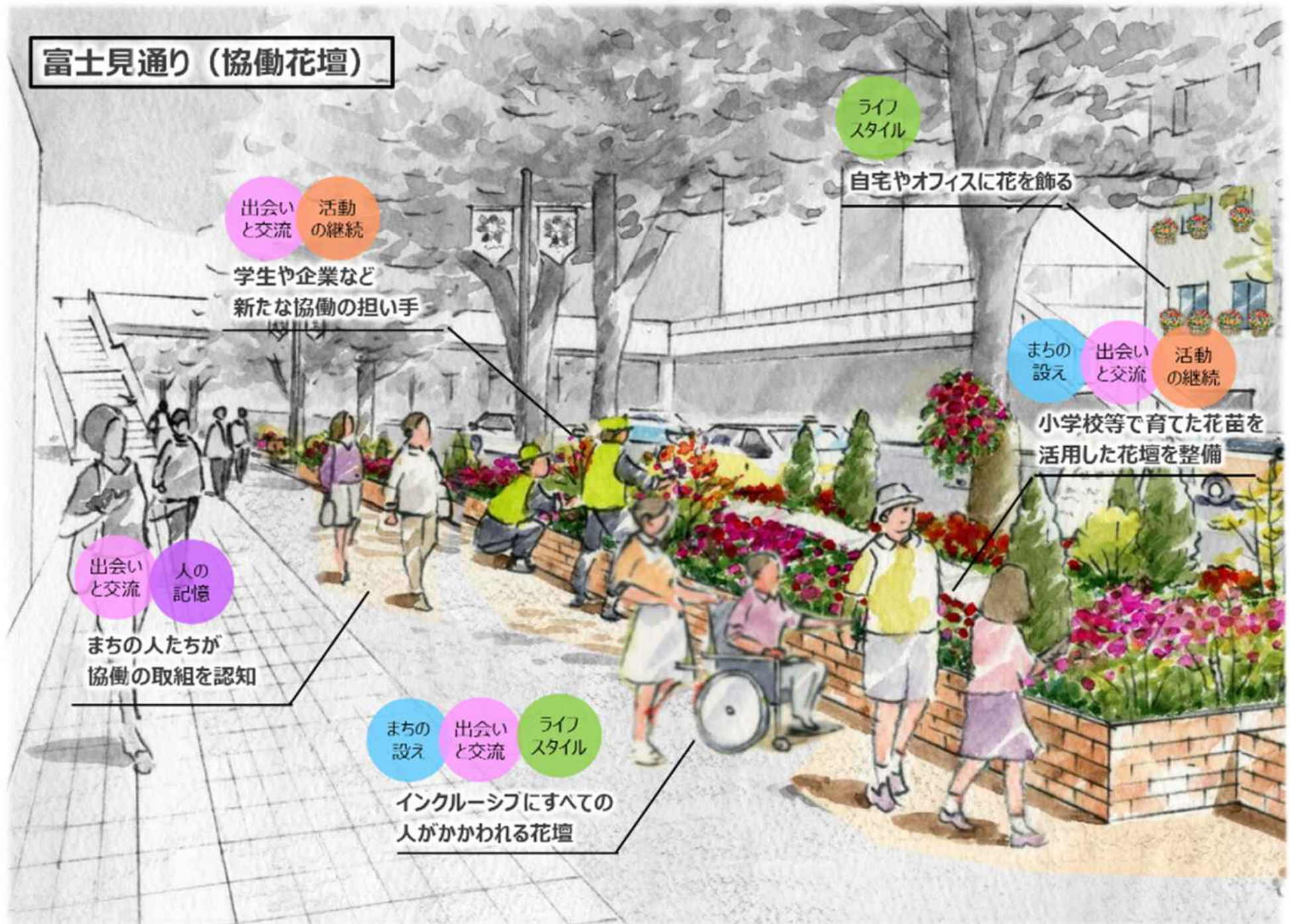


地域のやりたいを叶えることができる地域の個性があふれる公園に

1 - (7) みどりのまちづくりの展開と将来イメージ

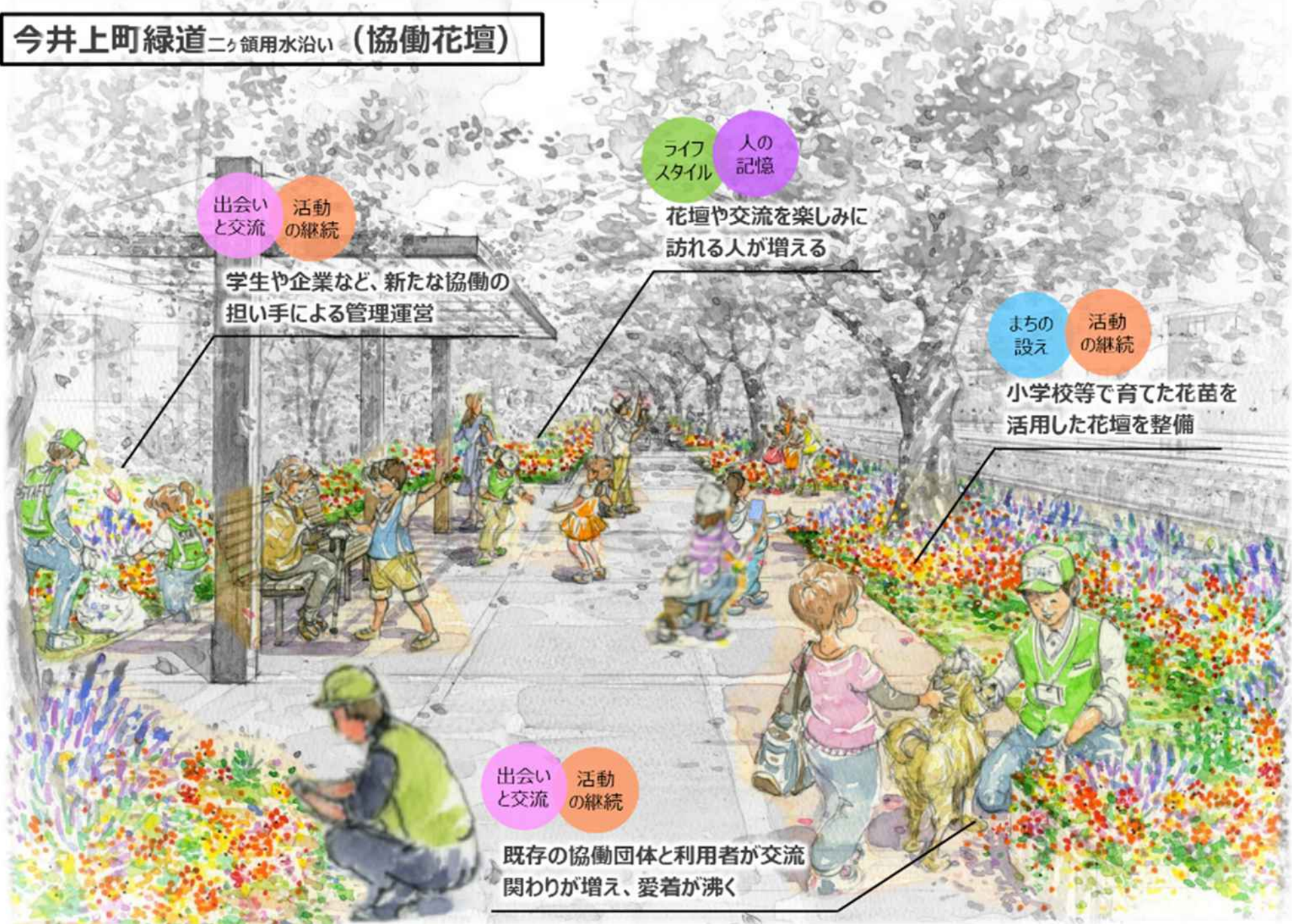


1 - (7) みどりのまちづくりの展開と将来イメージ

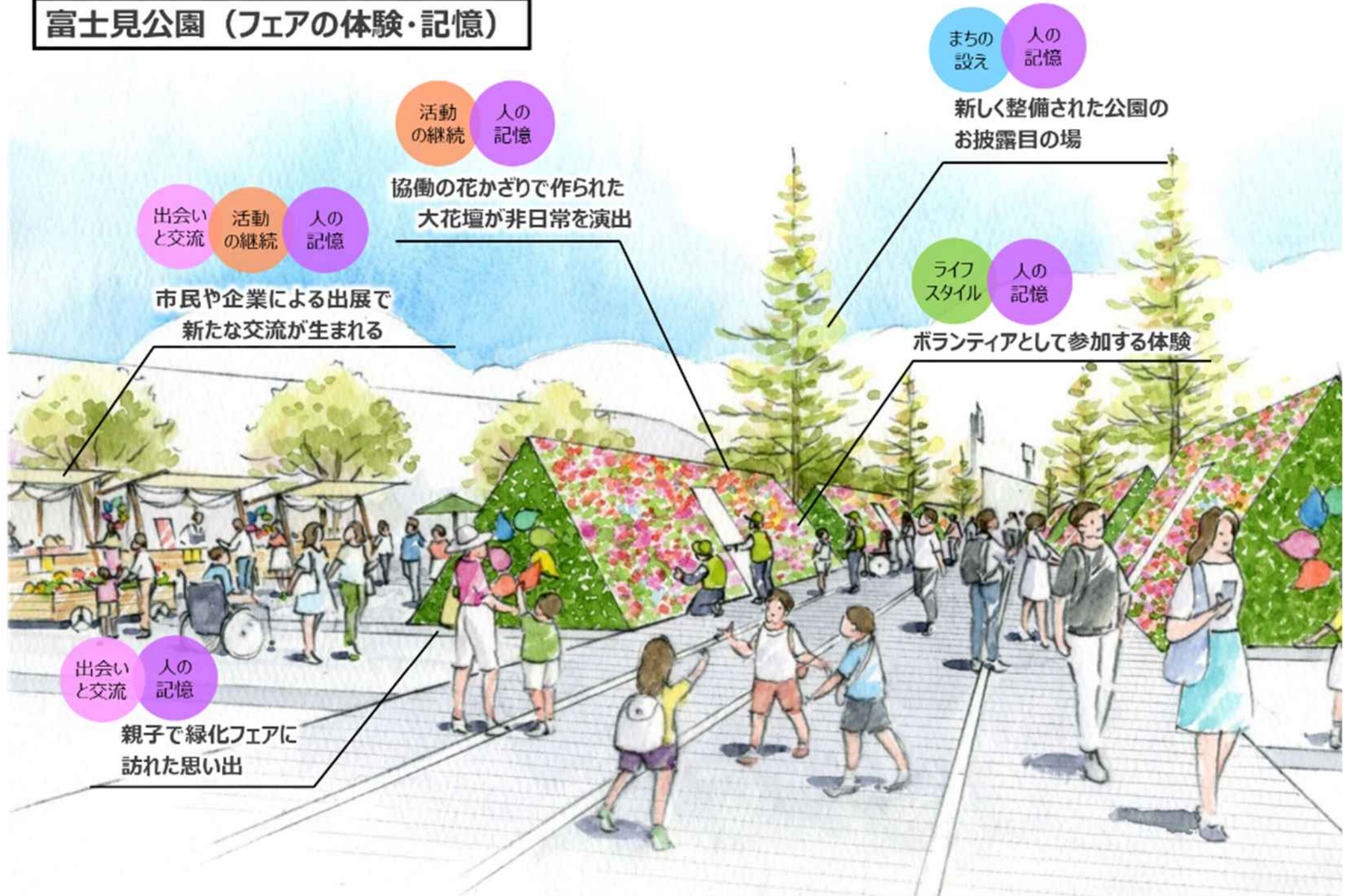


1 - (7) みどりのまちづくりの展開と将来イメージ

今井上町緑道ニが領用水沿い (協働花壇)



富士見公園 (フェアの体験・記憶)



富士見公園 (公園の使い方)

ライフ
スタイル

出会い
と交流

まちの
設え

地域に新たな価値を創出する
飲食施設

ライフ
スタイル

出会い
と交流

ヨガやワークスペースなどの
コミュニティの場として機能

ライフ
スタイル

まちの
設え

都心のオアシスとして
生まれ変わった芝生広場



1 - (7) みどりのまちづくりの展開と将来イメージ

富士見公園 (夜の公園利用)

ライフ
スタイル

出会い
と交流

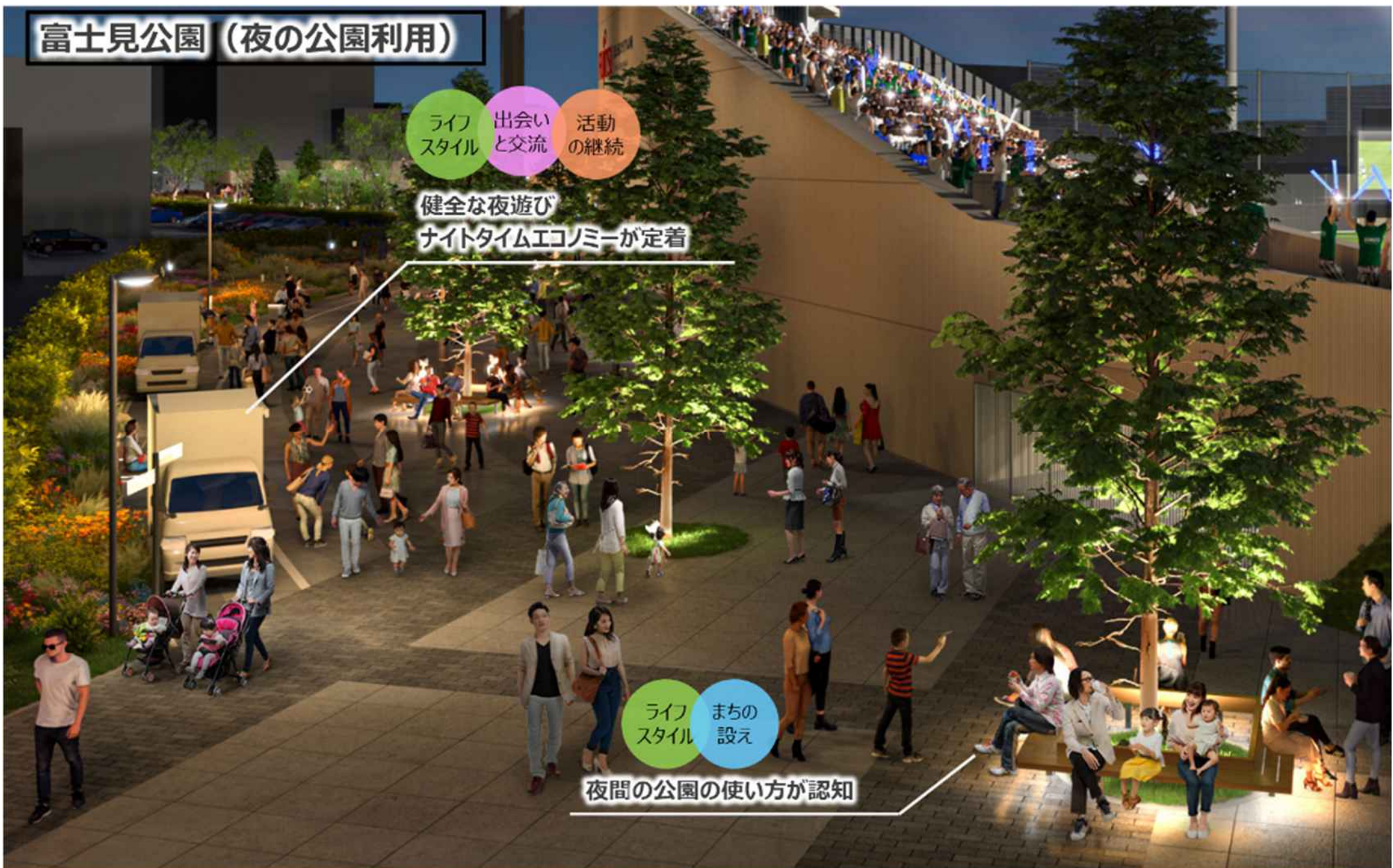
活動
の継続

健全な夜遊び
ナイトタイムエコノミーが定着

ライフ
スタイル

まちの
設え

夜間の公園の使い方が認知



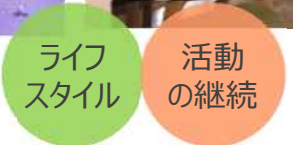
1 - (7) みどりのまちづくりの展開と将来イメージ

オフィスや商業施設（生活に取り入れられたみどり）

商業施設やオフィスに取り入れられたみどり



日常の身近な場所に取り入れられたみどり



自宅（生活に取り入れられたみどり）

1 - (8) かわさきフェア開催概要

ア 名称・愛称

<名称> 第41回 全国都市緑化かわさきフェア
<愛称> 「Green For All KAWASAKI 2024」

イ 主催者等

主催者 : 川崎市、公益財団法人都市緑化機構
実施主体 : 川崎市市制100周年記念事業・全国都市
緑化かわさきフェア実行委員会

ウ 開催期間

令和6年10月19日(土)～11月17日(日) (30日間)
令和7年 3月22日(土)～ 4月13日(日) (23日間)

エ 会場

コア会場
: 富士見公園、等々力緑地、生田緑地
コア会場周辺エリア及び
(仮) まちなかみどりスポット (協賛・連携会場)
: 公園緑地、河川、駅前広場、道路空間、庁舎、
商業施設・商店街など

オ 入場方式

基本的に入場料は無料
既存の有料施設を活用する場合、現行の課金体系を
基本に検討します。

カ 想定来場者数・概算事業費

想定来場者数 160万人
概算事業費 概ね19億円

キ 統一主題 (テーマ)

「みどりで、つなげる。みんなが、つながる。」

ク シンボルマーク

みどりをツールに、人と人、人と暮らしが緩やかにつながっていく様子を、区の数である7枚の葉を重ね、市民の活動 (アクション) がさらに広がっていくイメージを、多彩な色でロゴ全体を花に見立てて表現しています。



全体	100	記念事業のコンセプト「Colors, Future! いろいろって、未来。」 →広報のコンセプト「知って、関わって、好きになってもらう」
フェア	テーマ	「みどりで、つなげる。みんなが、つながる。」

フェア	●全国フェア	『 みどりの効果 』を感じさせる (利用価値) コミュニティ・健康・レクリエーションの場、リラックス効果 (存在価値) 水・空気の浄化、リラックス効果
-----	--------	--

●かわさきフェア 『**都市のなかのみどりの価値**』を感じさせる

まちの歴史や都市構造、
居住者層等によって異なる

地域差

個人差

人それぞれ、**みどりとつながり方**
(価値の感じ方)が異なる

- **自分にとってのみどりとつながり方を見直すきっかけ**にする。
- **ハレの日だけでなく日常にみどりを感じられる様々なライフスタイルを提案。**
- 各コア会場周辺エリアでは、地域の歴史やコンセプト等に応じた川崎市のみどりの価値を感じさせる**仕掛けを、市民、企業、団体など市民総参加で作りあげる。**

1 - (10) 開催のコンセプト・基本方針

かわさきフェアでは、みどりが持つポテンシャルを効果的に活用し、これまで培ってきた川崎の強みや各地域の特色を活かしながら、各分野の取組と連携して、多様な主体がつながり、行動するきっかけとする**市民総参加型のフェア**となるよう、取組を展開していきます。

<コンセプト>

Green For All! でみどりのムーブメントを起こします

<基本方針>

ア かわさきの多様なみどりの“力”を感じるフェア

- ・ 生物多様性や都市が抱える様々な課題の解決につながる、グリーンインフラの持つ多様な機能や効果の発信
- ・ 身近なみどりやオープンスペースを活用して、市民一人ひとりが生き生きと居心地よく活動できる空間の創出

イ 先端技術で新たな都市緑化の“形”をつくるフェア

- ・ フェアを通じた川崎の持つ最先端の技術、アイデアによる新しい都市緑化の実現
- ・ 市民一人ひとりのライフスタイルに対応した新しい公園の使い方の提案

ウ 多様なみどりでつながる“行動”を生み出すフェア

- ・ 市民、企業等が気軽に集い、新たな出会いやつながりを生みだす場づくり
- ・ 多様な主体がつながり、フェア開催後も、みどりに関わる様々な取組を継続・発展しながら、川崎のみどりの新たな価値を生み出していく仕組みづくり

エ 環境・社会・経済的価値を同時に実現できる“社会”を示すフェア

- ・ これまで培ってきた川崎の強み（自然環境、文化・芸術、名産品、先進技術、観光資源など）を活かして、SDGsの達成や脱炭素社会の実現に向けた、川崎のみどりが持つ多様なポテンシャルの発信

オ かわさきらしい多様性あふれる“文化”を育むフェア

- ・ これまでのみどりの歴史を振り返るとともに、未来の川崎に向けて、地域への愛着を持った市民一人ひとりが、暮らしの中でみどりと関わりながら、地域性あふれる多様な文化を育む機会の創出

2 協働推進

(1) 協働推進

ア 基本的な考え方

- これまでの市民協働の取組を大切にしながら、地域の団体と、未来のまちづくりを担う子どもたちや若者が出会い、新たなつながりを生み出します。
- 企業、地域の団体等を巻き込み、フェア開催以降も継続できる新たな協働、共創による仕組みの構築につなげていきます。
- 市民154万人（延べ人数）に知って、関わってもらうことを目指します。

<関わり方の例>

例1：花壇づくり等の**ボランティア**

身近な公園の花壇の植栽（**まちの彩り・賑わいづくり**）

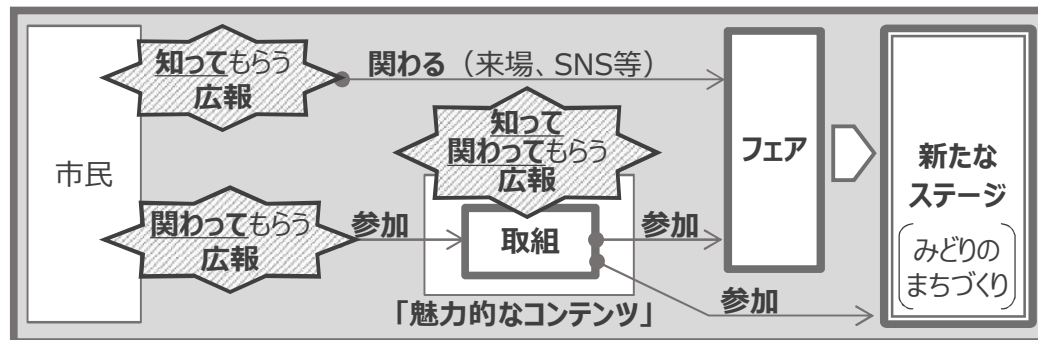
例2：**コア会場への来場**、各種**体験イベントへの参加**

例3：自宅のみどりの活動を**SNSに投稿** 等

イ 展開イメージ

- より多くの人に知って、関わってもらうため、既存イベントや取組等を活用するとともに、魅力的なコンテンツや会場における体験・体感を通じて、フェア開催前から意識醸成を図っていきます。
- また、魅力的なコンテンツ等の周知と広報を一体的に行うことで、取組を知り、関わるきっかけとなるよう積極的に情報発信していきます。

【広報と取組の一体的な仕掛け】



【動機付け（関わることの価値）】

[UP要素]

知名度、イメージ、**話題**、人脈、体調・健康、業績・収入、ブランド、趣味、**誇り・喜び**、地位・立場、美、パワー、諸能力、知識・知恵、社会貢献、性格・人格、生産性、チャンス、企業拡大、人望・名声 等

[DOWN要素]

悩み、ストレス、体重・肥満、コスト、リスク 等

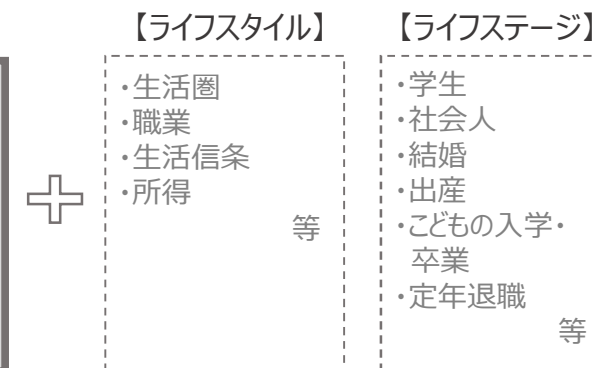
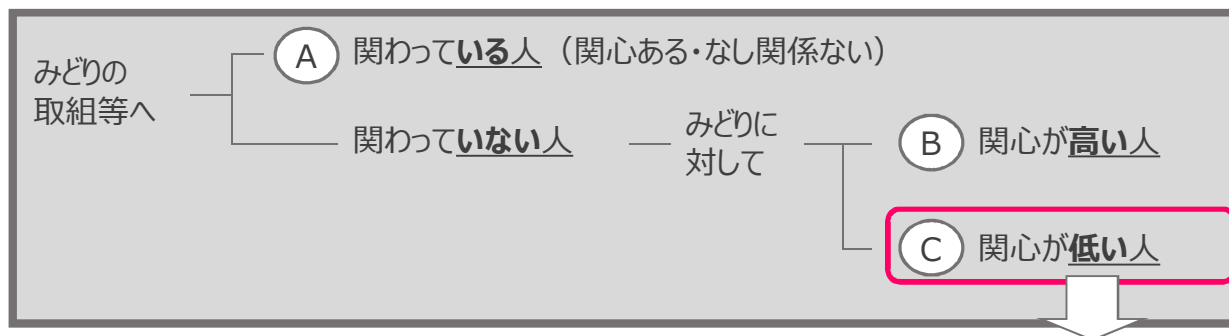
[出典]「新版 広報・PRの基本 p.54」日本実業出版社

2 協働推進

ア) ターゲット層の設定

より多くの人々を『みどりでつなげる』ためには、各自の関心事からアプローチすることが有効であることから、現状のみどりの取組等への関りの分類に加えて、ライフスタイルやライフステージ等に応じたターゲット層を整理します。

【みどりの取組等への関りの有無】



A・B層の参加の一層の拡大に繋がる取組について着実な推進を図るとともに、特に、**Cに対するアプローチに力点**を置きます

イ) アプローチの設定

魅力的なコンテンツを生む動機付け・きっかけづくりとして、ターゲット層ごとに、各自の動機付け（関わることの価値）を意識し、きめ細やかなアプローチを設定していきます。

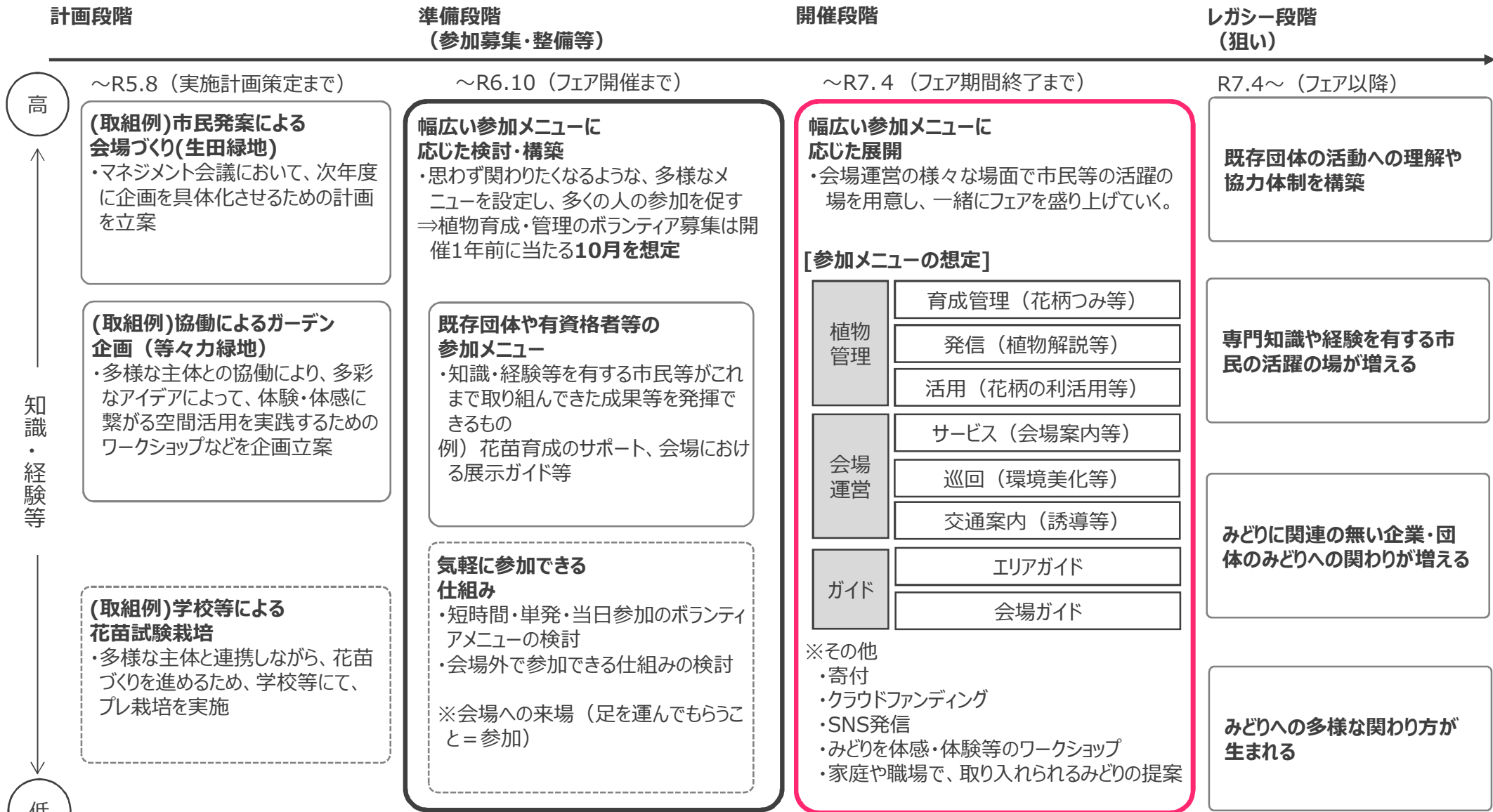
○A ○B

- 関わってもらうことを意識した**周知・広報と取組を展開**
- 思わず関わりたくなるような、**多様なメニューを設定**
例) 体験イベントや各種取組に係るコンテスト 等

○C

- 何よりもまず、**知ってもらうことを意識した周知・広報の徹底**
- **知らないうちに 又は いつの間にか関わっている状況を作る**
- みどりととは別の動機付けを入り口とするコンテンツを用意
例) スポーツ、音楽、健康など幅広く検討。

ウ) 取組の展開イメージ



機運醸成 ・関わってもらうことを意識した**周知・広報と取組を戦略的に展開**

ウ 実施例

ア) 協働の花苗育成 『協働の花づくり・花かざり』 の取組



教育・学習面：「感謝」「やさしさ」などの気持ちを育み、「探究心」や「想像力」を養うなど**花育**の効果が期待される。

R5年度プレ栽培の実施状況 (R5.8時点)

次の市立学校等にてプレ栽培を進めています。

- ・市内小学校 (3校) 宮前 (6/27～) / 下作延 (6/29～) / 柿生 (7/13～)
- ・市内中学校 (6校) 富士見 / 塚越 / 東高津 / 菅 (7/6～) / 枳形 / 長沢 (7/11～)
- ・市立保育園 (7園) 大島・古川・中原・梶ヶ谷・土橋・菅・白山 (7/10～)
- ・特別支援学校 (1校) ※R5秋実施に向け調整中

※企業等においても実施予定

プレ栽培参加者
累計約700人！
R5.8時点



フレ栽培の取組事例 ～市立宮前小学校～

- 日時： 令和5年6月27日（火） 9:35～11:30
- 実施場所： 校庭
- 対象： 市立宮前小学校 3年生（約100名）
- 実施方法： 総合学習の授業2コマ、約12名×9グループに分かれて実施
- 植付方法： たねダンゴ
- 概要： 宮前小学校の卒業生である緑化フェア推進室職員が植物講座を行い、川崎区道路公園センター等の協働のもと、たねダンゴづくり、植え付け、水やりまでを体験しました。児童の皆さんは植物の話に一生懸命耳を傾け、たねダンゴづくりを楽しんでいました。

●当日のタイムライン

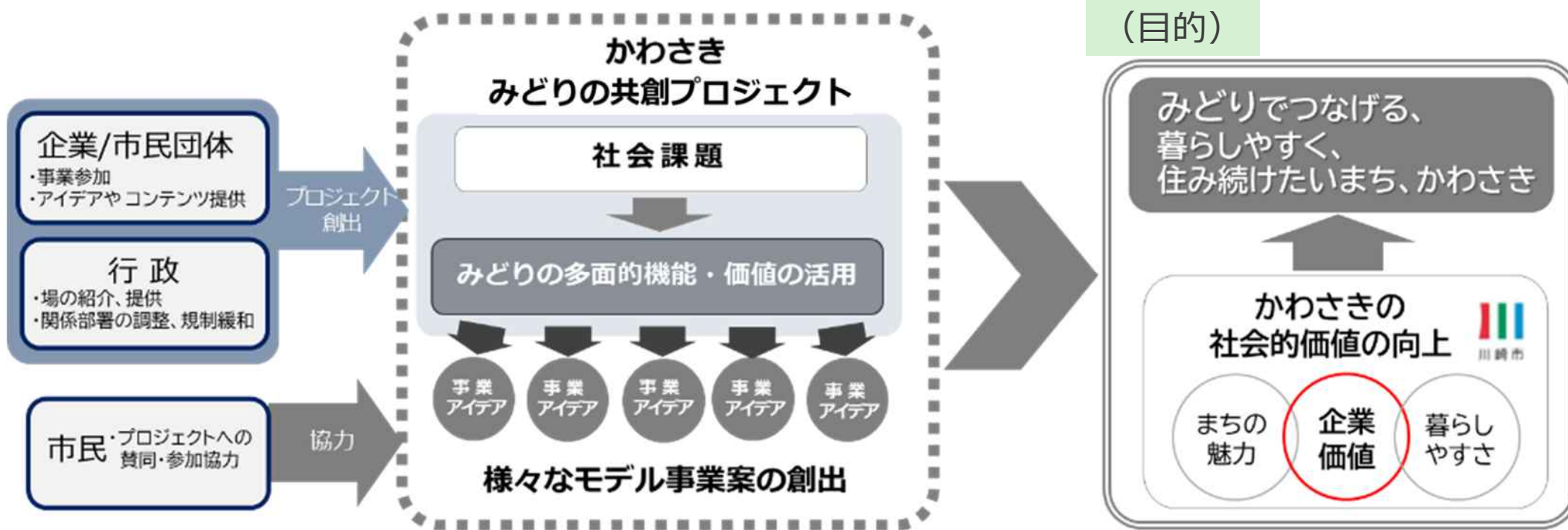
時間			学校	緑化フェア推進室	
	8:30	9:35	65分	会場準備	
2時間目	9:35	9:45	10分	移動、先生挨拶	
	9:45	10:00	15分	講座	フェアと花育（講師）
	10:00	10:20	20分	ダンゴづくり	説明、サポート
	10:20	10:45	25分	中休み	
3時間目	10:45	11:20	35分	たねダンゴづくり	説明、サポート
	11:20	11:25	5分	植付	説明、サポート
	11:25	11:30	5分	水やり、まとめ	まとめ+育て方説明
	11:30	12:00	30分	片付け	



共創の取組事例 ～かわさき みどりの共創プロジェクト～

全国都市緑化かわさきフェアの開催を機に、**みどりの力を活かし、市民、企業、大学、行政等の多様な主体との共創**により、『みどりでつなげる、暮らしやすく、住み続けたいまち』の実現を目指す取組として、みどりの共創プロジェクトを開催

共創プロジェクトの目的とプロセス



- 多様な主体が、互いの知見を持ち寄ることで生み出される、**柔軟な発想をもとにしたこれまでにない事業案を提案**
- 行政職員も検討過程に加わり、関連分野の**最新の動向や制度を踏まえる**ことで、**社会実装の可能性を向上**
- 生み出されたアイデアは、**既存事業の見直しや加速化、新規事業のアクセントとしても活用**

エ 参加に向けた展開のイメージ

ア) ターゲット層に応じた参加メニューの設定

持続可能な取組とするためには、フェア開催前から、参加者の興味や都合、知識や経験に応じて自らに合った参加方法を選択できる仕組みをつくる必要があります。ターゲットA層については、みどりへの関心も高く、すでに取組にも積極的に参加している方を想定しているため、基本的な広報での参加促進が見込めます。ターゲットB層、C層については、ライフステージやライフスタイルに鑑み、取組への参加の障壁となっている事項を解消するため、活動日、活動時間に応じた参加メニューを用意します。

活動日メニュー	活動時間メニュー
<ul style="list-style-type: none"> ・ ホリデー（土日祝日のみ参加） ・ 平日 ・ イベント ・ その場でボランティアほか、コンテストや体験イベントなどを検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1日 ・ 半日 ・ 短時間（1時間～2時間程度の参加を想定） ・ 放課後（学校が終わった後16:00～1時間程度の参加を想定）

イ) 共通アイテムの設定

参加した市民が一体感を持ってつながるきっかけのひとつとして、共通のアイテムを製作します。アイテムは緑化フェアへの関わり方によって違うものを準備し、緑化フェア後もみどりの活動等で継続して使えるような実用性とデザイン性を兼ね備えたアイテムとします。

ウ) みどりに対して関心が低いターゲットC層への仕掛け

- ・ 様々なかかわり方で、気が付けばフェアに参加していたという仕組みをつくり、フェアへ関わる取組を展開します。
- ・ 知らないうちにみどりに関わっている状況づくり（ナッジ理論※）を活用します。

※ナッジ理論とは、相手に選択の自由を残しつつ、小さなきっかけを与えることで、より良い選択を気分良く選ぶように促すこと。人間の意思決定の癖を利用したものであり、相手に命令することなく意図する方向へもっていくという行動経済学の理論。このナッジ理論を活用し、楽しみながら無意識に、いつの間にかみどりの活動を行っていたという環境をつくっている仕組みを検討。ナッジを使う際には、イギリスのナッジ・ユニットが開発した「EAST®」フレームワーク（Easy（簡単に）、Attractive（魅力的に、目立つように）、Social（社会に合わせて）、Timely（タイミングを計って））などを踏まえて設計します。

オ ボランティアによる参加

ア) ボランティア参加の実施方針

- ・これまで川崎市が培ってきた様々な既存ボランティアと連携を図りながら、フェア開催前から募集します。また、さらなる知識・経験の蓄積を図るため、講習会等への参加を促します。
- ・講習会や事前活動においても「みんながつながる」ことを目指し、参加者が興味関心を持つようなコンテンツを用意し、一体感の創出、参加者同士の交流を促していきます。
- ・多様な主体がつながり、重なり合う「市民総参加の仕組み」の構築に向けて、かわさきフェアを自分事として捉えるよう意識の変化を促すことや参加による誇りの醸成、仲間意識の醸成等を図るために、ストーリー性を持たせた「愛称付け」を行います。

イ) ボランティアの主な業務内容

- | | |
|-------------|--|
| 【植物育成・管理】 | 協働の花苗育成のサポート、会場内植物維持業務サポート、植物解説、花がらの利活用 など |
| 【会場運営サービス】 | 会場案内、迷子対応、落とし物サポート、貸出サポート（車椅子等） など |
| 【会場サービス】 | 会場内巡回、会場管理サポート、乗車待ち列案内、環境美化、介助サービス など |
| 【エリア巡回サポート】 | 会場外巡回、場外誘導、駐輪場案内、環境美化（ごみ拾い等） など |

ウ) 募集計画

- ・植物育成・管理のボランティア募集については、開催1年前にあたる令和5年10月から実施を予定しています。その他の業務内容については、令和6年4月以降を予定しています。
- ・市民、学生、関係団体、企業等がアクセスしやすいよう、フェアのホームページなどにより応募を行います。

3 観客誘致・広報宣伝

(2) 観客誘致・広報宣伝

ア 観客誘致

ア) 基本的な考え方

- 広報宣伝活動及び行催事については市制100周年記念事業と連携し、みどりの取組に関わっている市民はもちろん、幅広い市民と市外からの来場促進等を図ります。
- フェアのコンセプトや川崎市の可能性を感じてもらうことで、シビックプライドを醸成するとともに、関係人口を増やしていきます。

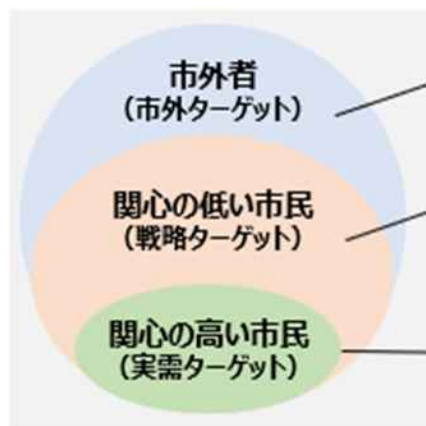
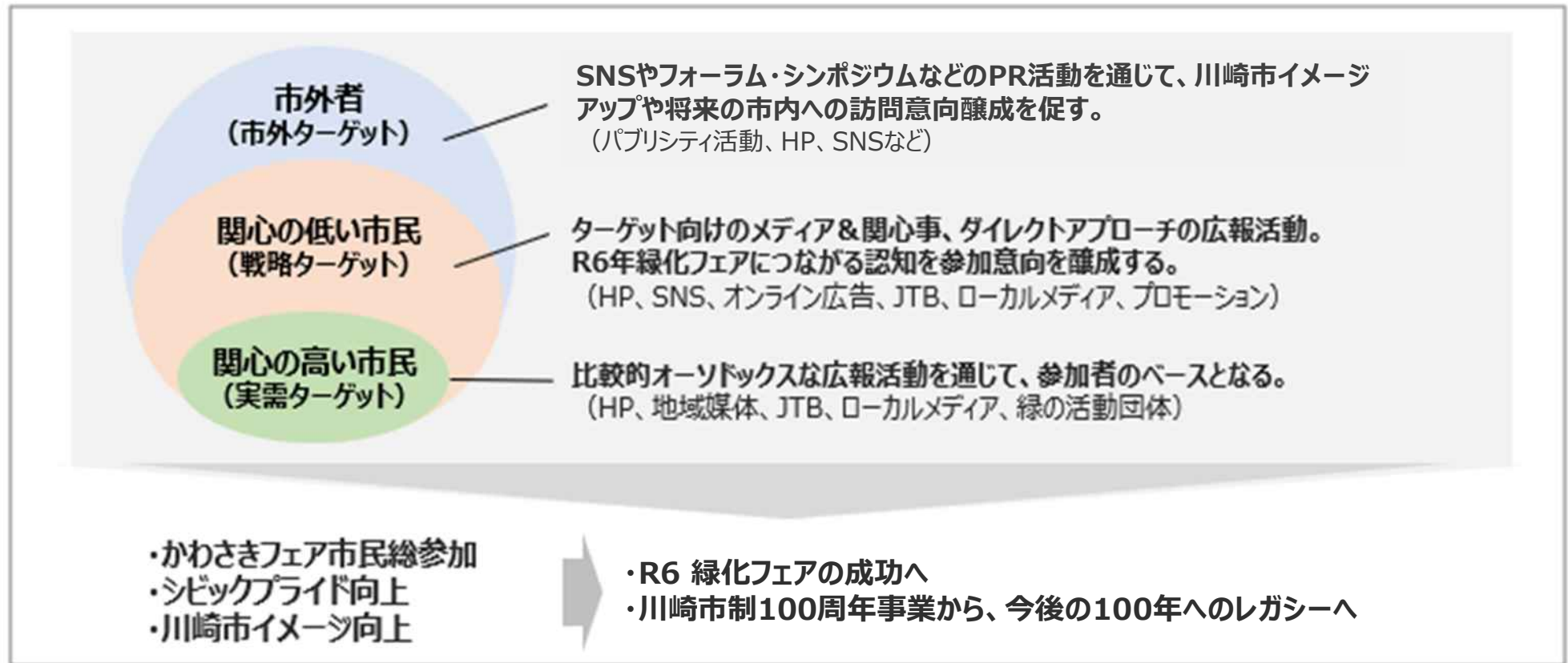
イ) 観客誘致の実施方針

協働推進の考え方を踏まえて、次のとおりターゲット層を設定します。

ターゲット層		取るべき主な活動
市内	A みどりの取組等へ関わっている人	・直接のアプローチ ・HPや地域媒体を通じたパブリシティ活動
	B みどりの取組等へ関わっていない + みどりに関心のある人	・直接のアプローチ ・パブリシティ活動 ・場を活用したプロモーション
	C みどりの取組等へ関わっていない + みどりに関心のない人	・ODH広告、オンライン広告 ・関心の高いコンテンツを入口としたプロモーション活動
D 市外の人たち		・オンライン広告やPR ・花の名所等でのPR

3 観客誘致・広報宣伝

ターゲット層ごとの実施方針



市外のみどりに関心のある人を対象に、関東近郊の公園や庭園、花と緑の展示等を行っているところを中心に、みどりをきっかけに川崎を知ってもらい、関わってもらい（訪問してもらう）ことにより、川崎のイメージ向上につなげます。

市内のみどりに関心のない人を対象に、その人にとっての趣味や関心事等をきっかけに、市内の様々なみどりの取組や活動を知ってもらい、関わってもらい（参加してもらう）ことにより、みどりによって心豊かな暮らし（ウェルビーイング）を実現し、暮らしやすく住み続けたいまちとして、川崎のシビックプライドの醸成を図ります。

市内のみどりに関心のある人を対象に、フェアをこれまでの取組のお披露目のきっかけとして活用し、既存の地域コミュニティの更なる発展等につなげるため、みどりに関して直接的な情報提供を行い、心豊かな暮らし（ウェルビーイング）を実現はもちろん、多くの人と人のつながりを生み出すことを目指します。

3 観客誘致・広報宣伝

イ 広報宣伝

ア) 基本的な考え方

- 観客誘致等の基本的な考え方に基づき、効果的な広報宣伝を展開します。
- 魅力的な取組を広報することで、多くの人の巻き込みを狙います。
- 特に会期中は、まち全体でおもてなし感を醸成します。
- 取組が集中する期間を広報集中として設定し、効果的に広報宣伝を行います。

100周年事業は通年行うなか、緑化フェアは集中期間を設定し、約1～3ヶ月前から広報を実施

市制100周年
 通年【1月（新年）、7月（市制記念日）、11月（フェス&カンファレンス）】
緑化フェア
 10月（秋開催）、3月（春開催）

イ) 広報宣伝の実施方針（集中期間の考え方）

7月	10月 R5	1月	4月	10月 R6	1月
広報集中期間			④ 100周年年度突入 + フェア春1年前 (令和6年3～4月)	⑥ 緑化フェア(秋) + フェス&カンファレンス (令和6年9～11月)	⑦ 緑化フェア(春) (令和7年1～4月)
① 99周年	② フェス&カンファレンス + フェア秋1年前 (令和5年10～11月)	③ 100周年の年に突入 (令和6年1月)	⑤ 100周年記念式典 (令和6年6～7月)		
主な広報ツール					

バージョンアップした**実行委員会ウェブサイト**により多彩なActionを情報提供

従来の市公式Twitterに加え、Instagram(100・緑)等を新規に立ち上げ、SNSによるActionの情報提供を充実

各種紙媒体（市政だより、市勢要覧・記念誌、ニュースレター等）※「知ってもらう広報」から「関わり・好きになってもらう広報」へ

ポスター・チラシ

ポスター・チラシ（※**キャッチコピー・キービジュアルを変更**）

Out Of Home広告開始

駅ジャック

主要駅ジャックの本格化（集中期間中心）

ノベルティ

ノベルティ(第2弾)

ノベルティ(第3弾以降)

PR動画

PR動画(第2弾以降)

市各局区が有するリソースの活用(懸垂幕、横断幕、サインージ、車両、ラッピングバスなど)

実行委員会参画団体・パートナーとの連携による多角的な広報の充実

スペシャルサポーター（ワークショップ等）

スペシャルサポーター（本格的なコラボ事業の実施）

イベントブースへの出展、パブリシティ施策・メディア展開の強化等

3 観客誘致・広報宣伝

ウ) 実施内容 (案)

① 広報ツール

● ホームページ・SNS

戦略ターゲット向けの、重要な情報発信媒体として、各SNSからホームページへの導線を確立し、確実な認知拡大を行う。



● ノベルティ

各種イベントでの配布を予定。かわさきフェアの開催や、ロゴマークへの認知度を高めていく。



不織布バッグ



エコポット



ペーパークラフト



クリアシール



● ポスター・チラシ

- ・ 「知ってもらう広報」はポスターをメイン、「関わってもらう広報」チラシをメインに展開。
- ・ ポスターは、フェアの基礎情報や伝えたいメッセージに絞った通常版を作成し、その後、適切な時期に応じて協賛企業ロゴ入り版を作成する。



- ・ 令和6年度以降はフェアへの期待感を促進するため、具体的な取組に参加し会場へ行きたくなるようなデザインを検討する。

② キャンペーン事業

● SNSキャンペーン

みどりやフェアへの関心を高め、各SNSの認知を上げホームページへの導線確立するため、広報集中期間においてSNSキャンペーン等を実施する。

● 緑育・花育の普及啓発

みどりの大切さを普及啓発するため、子ども向けに目に見て分かりやすいグッズ等を作成します。

● 全国イベントとのコラボレーション

都市緑化月間の行事においてPR。

③ マスメディア

100周年事業と連携し、かわさき市政だより等の広報誌やTVK「LOVEかわさき」、新聞等を活用して情報を発信する。

3 観客誘致・広報宣伝

ウ) 実施内容 (案)

④屋外広告物等

- **カウントダウンボード**
フェア開催に向けて機運醸成を図るため設置。



R5仙台フェア (仙台駅前)

- **フォトスポット**

ロゴの型枠を花で彩り、みんなでつながれるきっかけとしてのフォトスポットを設置。



<設置イメージ>

- **主要駅でのフラッグ掲示**

主要駅での広報により、川崎に暮らす人が100周年・緑化フェアを知り、誇りに感じられる彩りを施す

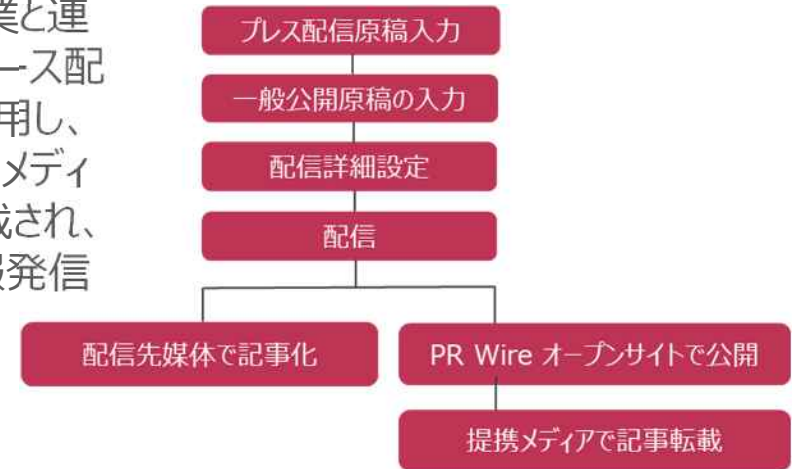


※令和6年の広報集中期間において、JR川崎駅西口、川崎駅、京急川崎駅、武蔵小杉駅、武蔵溝ノ口駅、溝の口駅、登戸駅、新百合ヶ丘駅で実施予定。

⑤パブリシティ

100周年事業と連携してプレスリリース配信サービスを使用し、提携している他メディアへ記事が転載され、より幅広い情報発信を狙う。

■リリースまでの流れ



⑥情報発信

- **ホームページ・SNS**

戦略ターゲット向けの、重要な情報発信媒体として、各SNSからホームページへの導線確立し、確実な認知拡大を行う。



⑦開催期間中の広報宣伝、観光誘客

首都圏のフラワーパークでのPR活動や市外イベントでのブース出展により、川崎の取組をPRする。

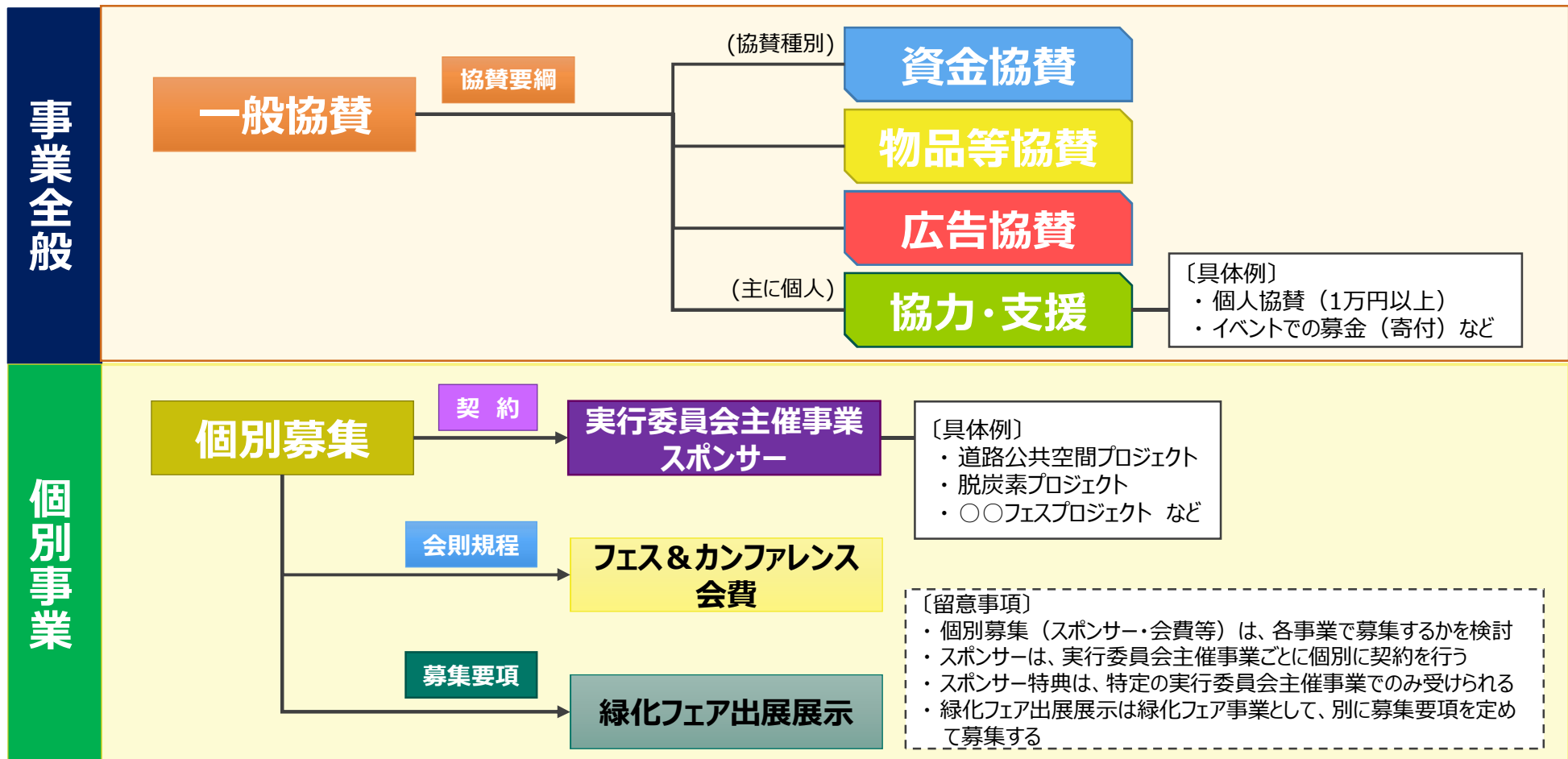
(3) 協賛

ア 協賛計画の基本的な考え方

市制100周年記念事業・全国都市緑化かわさきフェア実行委員会が主催する記念事業の趣旨に賛同する企業・団体、個人より、次の100年へ向けた「あたらしい川崎」を生み出す取組を実行するため、市制100周年記念事業として協賛を募集します。

○ 協賛の体系図

市制100周年記念事業・全国都市緑化かわさきフェア実行委員会が主催する記念事業の協賛の体系図を以下のとおり設定します。



イ 協賛区分の設定

以下のとおり協賛区分を設定します。

① 資金協賛

記念事業の趣旨に賛同する方から協賛金をご提供いただきます。※消費税は別途申し受けます。

② 物品等協賛

記念事業の運営に必要な資材、物品、施設及び設備、役務等を提供または無償貸与いただきます。

(例) 自動車、自転車、携帯電話・タブレット端末、車いす、ベビーカー、スタッフジャンパー、Wi-Fi通信機器、無線機、子ども用遊具、アウトドア用品、救護備品、催事用備品（テーブル・ベンチ、テント、コーン・バー等）、園芸用品、花苗・種子、役務等

① 広告協賛

協賛者が所管する広報媒体及び広告物掲示場所等をご提供いただきます。

(例) 電車・バス・駅・空港などにおける交通広告、商業施設・商店街などにおける屋外広告物、テレビ・ラジオ・新聞・雑誌等のマスメディア広告等

物品協賛の例 ※仙台フェア事例



広告協賛の例



広告協賛の例



Ⅰ 協賛特典メニュー

一般協賛特典 メニュー表	カテゴリー	資金協賛				物品等協賛		広告宣伝協賛		協力・支援
	協賛ランク	パートナー				サプライヤー		メディアパートナー		サポーター (個人のみ)
		プラチナ	ゴールド	シルバー	ブロンズ	ゴールド	シルバー	ゴールド	シルバー	
金額	500万円	300万円	100万円	10万円	100万円 相当額以上	10万円 相当額以上	100万円 相当額以上	10万円 相当額以上	1万円以上	
名称使用权										
「○○パートナー/サプライヤー/サポーター」名称使用权	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
パートナーランク別の単色ロゴの使用权	<input type="checkbox"/> (プラチ)	<input type="checkbox"/> (金)	<input type="checkbox"/> (銀)	<input type="checkbox"/> (銅)						
広報・製作物 (※ランク別)										
広報・宣伝への企業・団体名掲載	<input type="checkbox"/> (大)	<input type="checkbox"/> (中)	<input type="checkbox"/> (小)	テキスト	<input type="checkbox"/> (小)	テキスト	<input type="checkbox"/> (小)	テキスト		
協賛企業ボードへの企業・団体名掲載	<input type="checkbox"/> (大)	<input type="checkbox"/> (中)	<input type="checkbox"/> (小)	テキスト	<input type="checkbox"/> (小)	テキスト	<input type="checkbox"/> (小)	テキスト		
フェア会場エリア内への企業・団体名掲載【★令和5年度申込特典】	<input type="checkbox"/>									
ガイドブックへの企業・団体名掲載	<input type="checkbox"/> (大)	<input type="checkbox"/> (中)	<input type="checkbox"/> (小)	テキスト	<input type="checkbox"/> (小)	テキスト	<input type="checkbox"/> (小)	テキスト		
公式WEBサイトへの企業・団体名掲載・リンクの設定	<input type="checkbox"/> (大バナー)	<input type="checkbox"/> (中バナー)	<input type="checkbox"/> (小バナー)	テキスト	<input type="checkbox"/> (小ロゴ)	テキスト	<input type="checkbox"/> (小ロゴ)	テキスト		
公式WEBサイト記事・ニュースレター・SNS等への企業・団体名掲載	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>								
公式記録誌への企業・団体名掲載	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
実行委員会ユニフォームへの企業ロゴ掲載	<input type="checkbox"/>				<input type="checkbox"/>					
記念式典 (緑化フェア公式行事除く)										
式典会場・エントランスホール内での広報【★令和5年度申込特典】	<input type="checkbox"/> (大)	<input type="checkbox"/> (中)	<input type="checkbox"/> (小)							
プログラムへの企業・団体名掲載	<input type="checkbox"/> (大)	<input type="checkbox"/> (中)	<input type="checkbox"/> (小)	テキスト	<input type="checkbox"/> (小)	テキスト	<input type="checkbox"/> (小)	テキスト		
その他										
市長受領・表彰式	<input type="checkbox"/>									

※ ★令和5年度申込特典：令和5年度までに協賛のお申込みをした方のみの特典となります（令和6年度以降のお申込みは対象外）。

(3) 会場

ア 会場の基本的な考え方

みどりの効果を感じさせる会場を、大きく3つに区分します。

＜会場計画に必要な視点として5つのキーワードを整理＞

- 持続可能 ……未来につながる取組
- すべての人 ……市民総参加型のフェア
- みどりでつなげる ……人とみどり、人と人のつながりを感じる
- 多彩なみどり ……街なかの緑地、多摩川、樹林地等を感じる
- 多様な効果 ……様々なみどりの効果を感じる

ア) 会場区分

会場区分	定義
コア会場	<ul style="list-style-type: none"> 5つのキーワードを全て取り入れて取組を展開する会場 南部・中部・北部に位置にし、それぞれの地域性や特色ある3つの総合公園をコア会場として設定
エリア	<ul style="list-style-type: none"> 駅からコア会場までの主要動線付近にある協賛・連携会場などを、各エリアのコンセプトを具現化して市内外からの集客を見込むエリアとして設定
(仮) まちなかみどりスポット (協賛・連携会場)	<ul style="list-style-type: none"> 5つのキーワードを少なくとも1つを取り入れて取組を展開する会場

イ) 会場区分ごとの取組の方向性

コア会場 (富士見公園・等々力緑地・生田緑地)

- 各エリアのコンセプトを定め、川崎らしい都市の中のみどりの価値を発信。
- フェアの**主要な行催事等 (公式行事、出展展示等)**を実施するとともに、周辺の地域資源や特色を活かし、多様な主体との協働・共創による様々な取組のショーケースとなる空間を創出し、市内外から来場者を呼び込む仕掛けを展開
- グリーンインフラの効果やみどりの新しい価値等を効果的に発信
- 各公園の指定管理者と連携を図り、出展展示や行催事を実施

エリア (コア会場周辺)

- 多様な主体と連携し、オープンスペースや地域資源を活かし、みどりの効果を感じながら、安全かつ歩いて楽しめる空間づくりを展開

(仮) まちなかみどりスポット (協賛・連携会場)

- 市内の様々なみどりとオープンスペースを活用し、**日常の活動や取組をフェアを通じて発信**し、市内全域でフェアを盛り上げる一体感を醸成する。
- 訪れる側も、迎える側も、誰もが参加しやすく、親しみやすい名称を設定し、各地域における市民、企業、地域団体等の多様な主体と協働・連携した取組にスポットをあて、それぞれの特色を活かした取組を市内全域で展開

＜例＞

- 身近な公園や商業施設等を活用した、花やみどりを体験・体感できる取組
- 道路沿いや公園の花壇等での花植え活動 等
- 多様な主体との協働・共創による、エリア全体でフェアを感じられる取組
- 多くの人が集まる駅や公共空間を活用した、コア会場へとつながる期待感等を醸成する取組 等

ウ) 3つのコア会場およびエリアのコンセプト

かわさきフェアの3つのコア会場およびエリアのコンセプトは、地域特性を踏まえ、以下のとおり設定します。

文化・歴史 × みどり

これまでの協働の取組を活かし、歴史・文化を楽しみながら学ぶ取組を展開
人と自然とのつながりの中で、自然を感じ、楽しむことのできる機会を提供し、
生田緑地の持続可能性につながる取組を展開

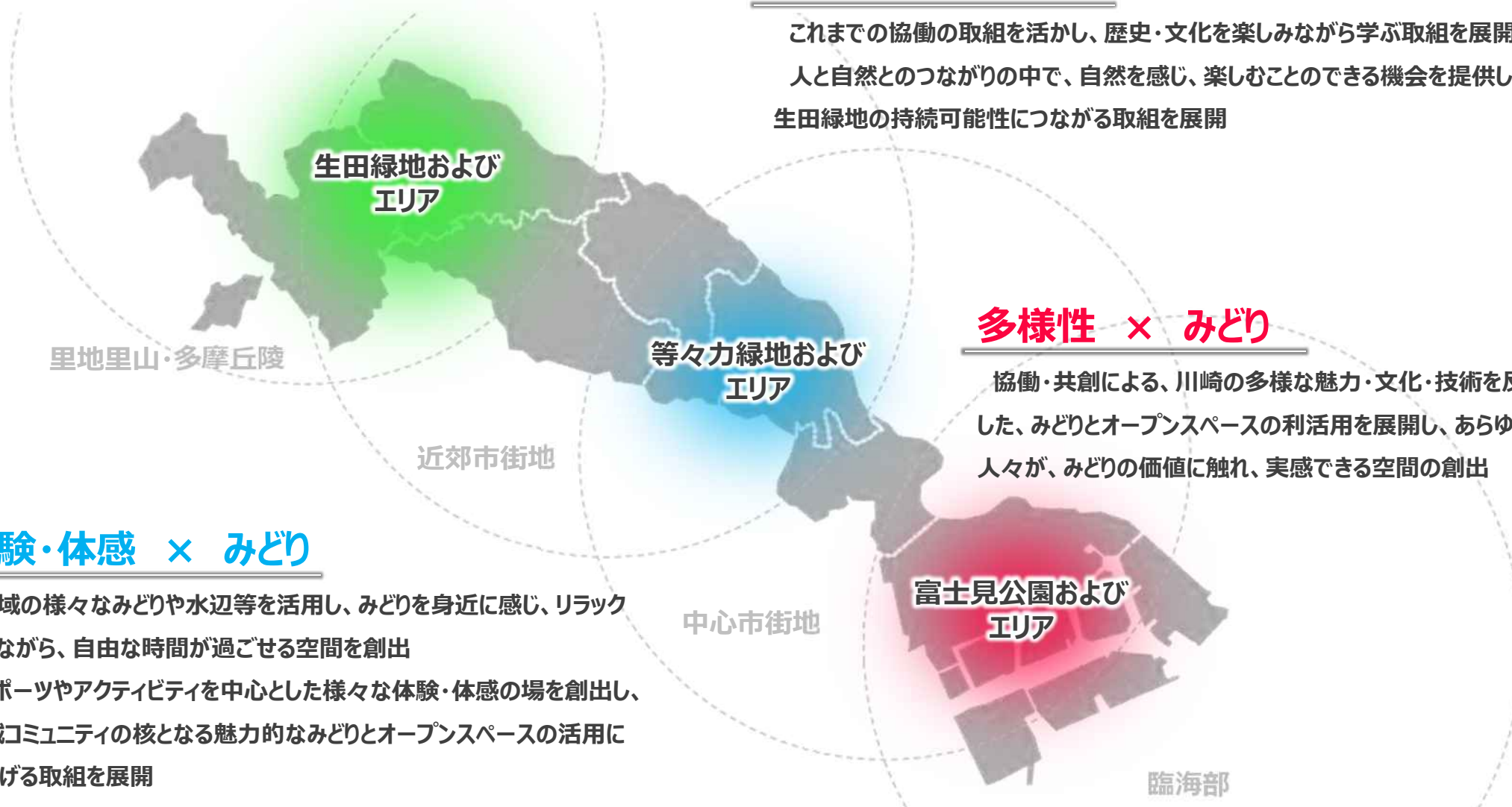
多様性 × みどり

協働・共創による、川崎の多様な魅力・文化・技術を反映
した、みどりとオープンスペースの利活用を展開し、あらゆる
人々が、みどりの価値に触れ、実感できる空間の創出

体験・体感 × みどり

地域の様々なみどりや水辺等を活用し、みどりを身近に感じ、リラックスしながら、自由な時間が過ごせる空間を創出

スポーツやアクティビティを中心とした様々な体験・体感の場を創出し、
地域コミュニティの核となる魅力的なみどりとオープンスペースの活用につなげる取組を展開



工) 2期開催を活かした取組の展開

これまでの100年 から これからの100年へ

フェア前

種まき

秋開催

芽が出る

生育期

育てる

春開催

花が咲く

フェア後

暮らしに根付く

機運醸成

市民参加花壇

プレ栽培

秋播き-春咲き
春播き-秋咲き

ボランティア募集

秋

きっかけを活かし、
参加・体験

秋からの継続
春に向けて育む

春

レガシー

みどりを知ってもらい、
みどりに関わってもらおう『**大きなきっかけ**』づくり

**秋に手掛けた取組の成果を共有し、
実感**することでフェア後の行動に繋げる



自治体出展花壇 (事業者制作)



市民協働花壇 (市民制作)



イ 富士見公園・エリア

ア) エリアの展開イメージ

コンセプト | 「多様性×みどり」

エリア全体で多様性を表現

まちを回遊することで、川崎の多様性を楽しむ
富士見公園まで自然と足が向く花と緑のおもてなし

(エリアについて)

- ・富士見エリアはJR・京急川崎駅周辺からコア会場までの市役所通り・富士見通りの両側に広がる商店街、市役所本庁舎、ハローブリッジ等を含めた範囲とします。

(エリアの特色)

- ・JR東海道線、京浜東北線、南武線や京急本線等により、骨格となる鉄道網が形成されており東京都心や横浜方面など多方面からアクセスが良い。

(展開イメージ)

○川崎駅前の空間活用

- ・川崎の多様な魅力・文化が、まち全体にあふれ出す仕掛けとして、まち全体とみどりを掛け合わせ「特別な日」を演出
- ・駅前空間を活用した取組を拡大し、「日常」をさらなる賑わいある空間に創出
- ・商業施設、商店街等と連携し、まちを訪れるあらゆる人が、憩い、楽しむことで、街中に人があふれる仕掛けを展開

○駅から会場までのアプローチ

- ・川崎駅からコア会場までのオープンスペースを活用しフェアへの期待感を高める
- ・みどりを感じながら歩いて楽しめる空間の創出



イ) エリアの取組

① 市役所通りの公共空間の利活用 ～これからの100年を見据えたウォークブルなまちづくり～

- ・自転車通行帯と歩道を**歩行者中心の空間**として活用する**実証実験**
- ・**市民が活躍・交流**する実施・管理**体制の創出**に向けた取り組みの展開
- ・**歩きやすく利用しやすいまち**に向けた**公共空間の活用**、都市の魅力向上

- 開催前** 100周年事業等で、車道空間の活用を実験的に実施
- 秋開催** 歩道と自転車通行帯をイベント等で利活用する実証実験を実施
- 春開催** 新たな事業者の参画や空間構成の改善等による取組の活性化
- レガシー** ウォークブルなまちづくりを沿道事業者等が主体で実施するきっかけ



② 協働のおもてなし花壇 ～全国自治体花壇を引き継ぎ、市民協働で会場までおもてなし～

- ・富士見通り沿いの植樹帯を活用し、**全国の自治体が出展する花壇**で会場までおもてなし
- ・自治体出展花壇を**引き継ぎ、市民協働で制作**した花壇で春開催のおもてなし

- 開催前** 全国自治体がデザインした花壇を市内造園事業者が制作
- 秋開催** 会期中の灌水や花がら摘みなど、市民ボランティアが花壇を手入れ
- 春開催** 学校や地域、若者が春に向けておもてなしの花壇を演出
- レガシー** 沿道の花壇を持続的に育成管理することで、様々な人がつながるきっかけ



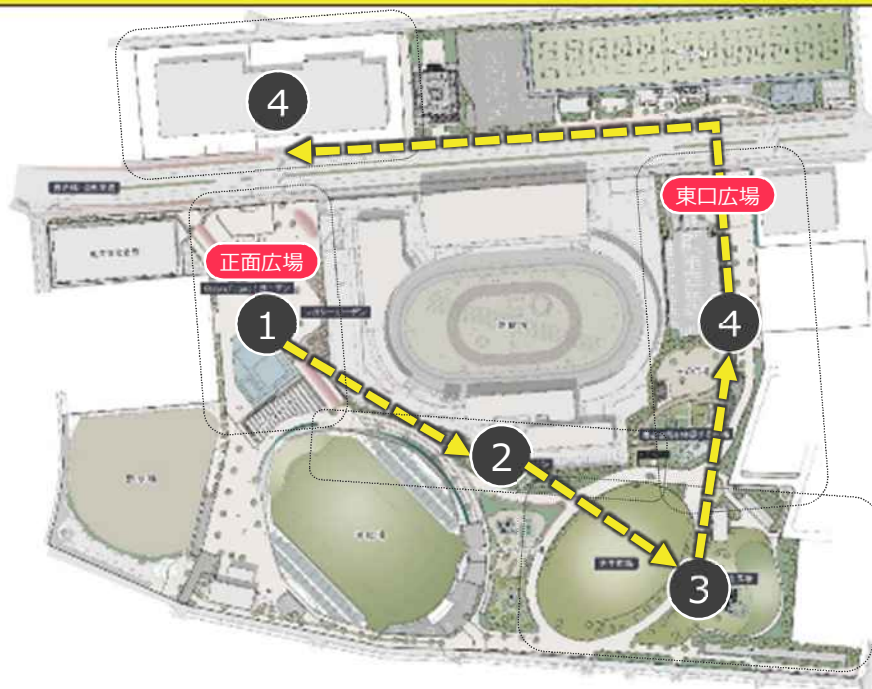
ウ) 富士見公園における展開イメージ

●ストーリー

川崎駅から会場まで、花と緑に彩られたいつもと違うまちの風景に、ワクワク感を持って会場へ到着

- 1 市民協働による圧倒的な大花壇に包まれる
- 2 良好な都市環境の形成に寄与するみどりの多面的な価値を知る
- 3 心地よさを感じる公園での自由な過ごし方を体験する
- 4 市民のライフスタイルに、身近なみどりを取り入れるノウハウを習得

みどりをきっかけに、人と人が出会い、コミュニティのつながりが、まち全体へと広がっていく



●展開イメージ

- ・都会の中の多様なみどりの粋を集める
- ・市民のエシカルなライフスタイルを実現する、みどりの多様な価値の創出

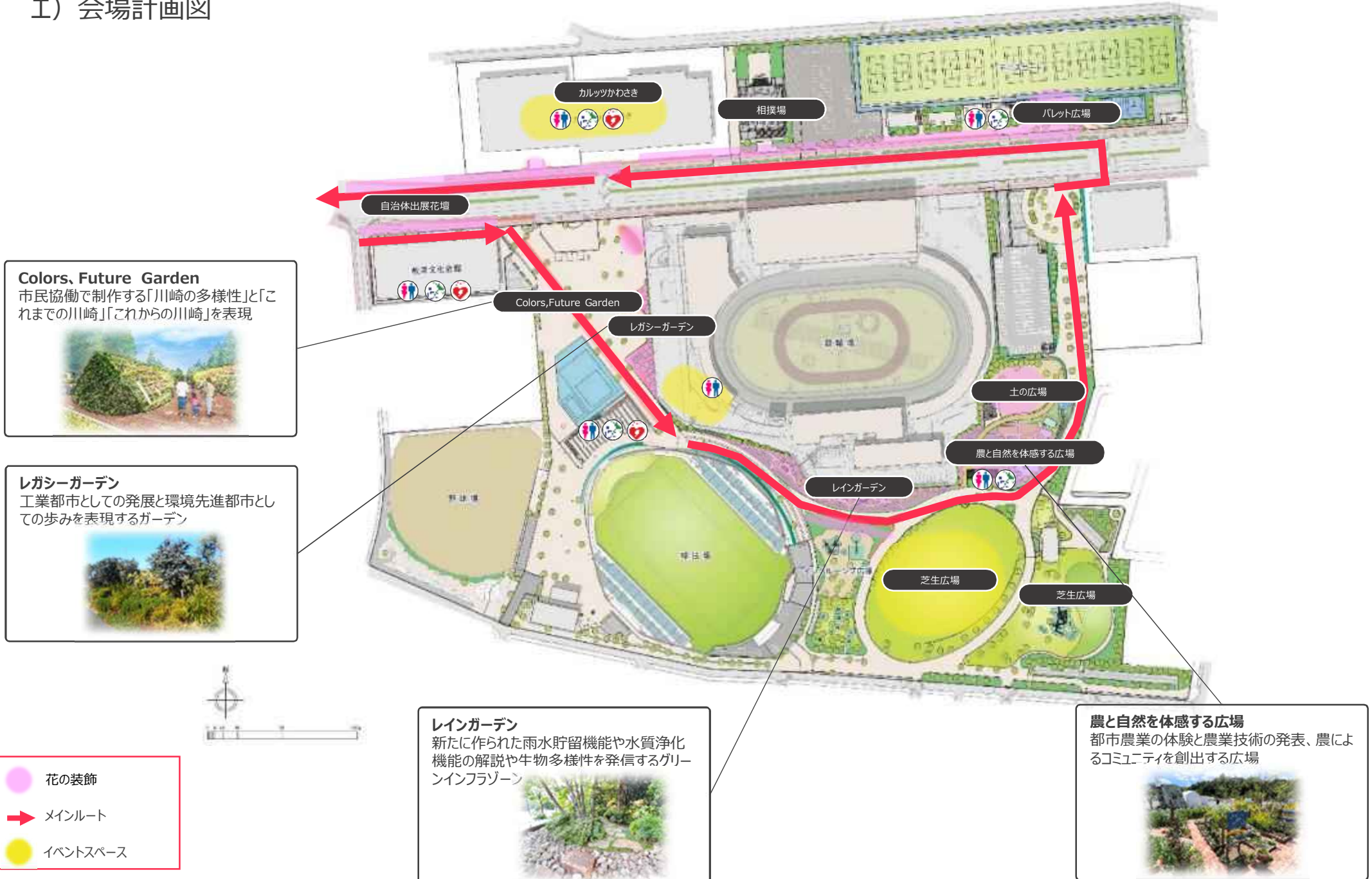
(富士見公園について)

- ・富士見公園西口のエントランスゾーンから園内を周遊するルートを中心に、北側テニスコート前、隣接するカルツかわさきを活用した会場としていきます。

(展開イメージ)

- ・新しい富士見公園において、環境先進都市としてのこれまでの歩みとこれからを市民協働で発信します。
- ・都会の中のみどりの効果を、新たに完成する広大な芝生広場やレインガーデン、農を自然を体験する広場などで発信します。
- ・都市の中のみどりを立体的に表現し、身近に取り入れる要素を織り交ぜた展示とします。

工) 会場計画図



オ) 富士見会場の取組

① Colors,Future Garden ～みどりで、つながる。みんなが、つながる。ガーデン～

- ・花苗育成や植え付けなど、あらゆる段階で**市民協働により制作**
- ・**「川崎の多様性」と「これまでの川崎」「これからの川崎」**を表現



開催前 学校や企業等が地域ボランティアと協働で花苗を育成

秋開催 育てた花苗を使用した花壇を展示し、市民が管理に参加

春開催 秋に花苗育成の関りが花壇を中心につながりを生み、多様な人々が花苗育成や管理に参加

レガシー 育てた花苗を多くの人に見てもらい感動をきっかけとして、花を育てる楽しみや、地域の人たちとのコミュニティの大切さを実感してもらい、多くの市民が地域活動に参加

② 農と自然を体感する広場 ～まちなかの農と自然が広げるコミュニティ～

- ・農と自然を体験する広場を活用した**都市農業の体験空間**
- ・新たな**ボランティア・管理団体の創出・コミュニティの形成**



開催前 収穫体験や作物の育成イベントにより、農業ボランティアなどに関わるきっかけづくり

秋開催 収穫と春作物の植え付けイベントを通じた農業技術の発表

春開催 秋の収穫体験・農作物体験者などによる、春の収穫体験や畑や池に集まる生物観察会の企画

レガシー まちの中で気軽に体験できる農業を通じて、都市農業への理解を深め、新たなボランティア団体の設立、メンバーの交流などのコミュニティ形成

③ レガシーガーデン ～これまでの100年、これからの100年、つなぐガーデン～

- ・工業都市としての発展と環境先進都市として歩んだ100年を多様な緑で表現
- ・環境先進都市として、これからの100年を市民とともにつなぐガーデン

開催前 → 市民などと共に花壇の管理と植栽の実施

秋開催 → レガシーガーデンとして植栽及びモニュメントを展示し、川崎のこれまでの歴史を表現

春開催 → 多くの人々がレガシーガーデンの植栽や管理に参加

レガシー → 環境先進都市として環境と産業の調和を目指す考え方が広く市民に伝わる



④ レインガーデン ～自然の有する多様な機能を活かしたガーデン～

- ・雨水貯留機能や水質浄化機能など自然が有する多様な機能を解説するグリーンインフラゾーン
- ・レインガーデンの機能と植栽が融合した良好な景観形成

開催前 → 富士見公園再編整備事業によりレインガーデンを整備

秋開催 → レインガーデン周辺のグリーンインフラゾーンにおいて、技術と環境配慮の手法を展示

春開催 → 水循環や洪水抑制等の機能解説とともに、春の彩りを感じるガーデンを展示

レガシー → 都市型洪水の減災対策などについて考え、環境共生の理解が深まる



ウ 等々力緑地・エリア

ア) エリアの展開イメージ

コンセプト | 「体感・体験×みどり」

都市の暮らしと共にある、水やみどりとの関わりに気づき、実感する

(エリアについて)

- 等々力エリアは武蔵小杉駅周辺を含むJR武蔵小杉駅の北側、JR武蔵中原駅東側、多摩川までの範囲とします。

(エリアの特色)

- JR南武線、横須賀線と東急東横線により、骨格となる鉄道網が形成されており、東京都心や横浜方面など、多方面からアクセスが良好です。
- 産業構造の転換を先取りした企業による研究・開発部門等の都市型産業が武蔵小杉駅や武蔵中原駅周辺を中心に立地しています。
- 多摩川や二ヶ領用水をはじめとした水辺空間、身近な公園緑地、神社仏閣、商店街等の地域資源が豊富にあります。
- 駅前広場や多摩川緑地等のオープンスペースにおいて、様々なイベントが開催されています。

(展開イメージ)

○武蔵小杉駅前空間の活用

- 市民、地域団体、企業等と連携し、駅前広場や駅周辺の民間空地、公園緑地、道路などの様々な空間において、地域のつながりを生み出す魅力的なオープンスペースの活用につながる様々な取組を展開

○駅から会場までのアプローチ空間の活用

- 二ヶ領用水をはじめ、身近な公園緑地、水辺空間や神社仏閣、商店街等の地域資源とともに、地域の身近なみどりの魅力にふれ楽しむことで、地域とのつながりを生み出す様々な仕掛けを展開

○多摩川の活用

- 多摩川の豊かな水資源や水辺環境を活かした遊び・交流など、様々な体験・体感を通じて水やみどりとふれあい、楽しむ取組を展開

- コア会場 (等々力緑地)
- 花の装飾
- ➔ おすすめルート
- まちなかの賑わい
- 学校
- 神社仏閣
- 商業施設等
- 商店街



二ヶ領用水



多摩川緑地

イ) エリアの取組

① ニヶ領用水の魅力発信 ～市民協働による新たな花壇づくり～

- ・市民や団体等と協働の取組で、来場者が水とみどりを感じながら歩くことができる魅力ある親水空間を演出
- ・ニヶ領用水の歴史や魅力を発信し、市民等が親しみ関わりやすい取組を展開

開催前 愛護会や小学校等との協働により、花壇を再整備

秋開催 ニヶ領用水の歴史や魅力に触れ、楽しみながら散策できる季節の花で彩られた緑道を演出

春開催 桜と桃の花が満開となり、市民協働により守られてきたニヶ領用水の歴史や魅力を発信

レガシー フェアをきっかけにニヶ領用水の魅力が伝わり、多様な地域の主体が関わるようになる



※イメージ

② 多摩川の魅力再発見プロジェクト ～多摩川のみどりを身近に感じる仕掛けを展開～

- ・地域団体等と連携し、桜やハマダイコン、セイウカラシナ等の自生する植物の魅力の発信や生物多様性を保全
- ・多摩川の魅力
- ・水辺を活用したイベント等と連携した取組を展開

開催前 地域活動団体等と協働による魅力発信の取組の検討

秋開催 地域活動団体等との連携による多摩川の魅力発信できる仕掛けを展開

春開催 桜並木やハマダイコン、セイウカラシナ等の花畑を活かした取組を展開

レガシー 多摩川の魅力再発見し、市民が都市の暮らしの楽しさを実感



※イメージ

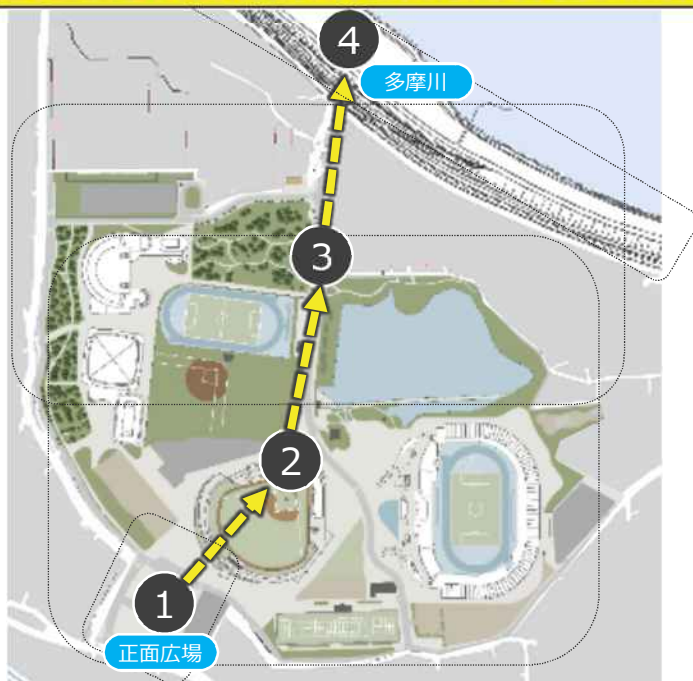
ウ) 等々力緑地における展開イメージ

●ストーリー

都市の賑わいを感じながら、まちなかを散策し、二ヶ領用水の水とみどりを感じながら会場へ到着

- 1 五感で感じる花やみどりを体験・体感する
- 2 官民連携による実験的な取組を通じて、新たなみどりの価値に気づく
- 3 水やみどりを舞台に、様々なアクティビティを体験し、楽しさを実感する
- 4 母なる川・多摩川の豊かさを体感し、新しいライフスタイルを提案する

みどりをもっとアクティブに活用する、新しいみどりとの関係性を発見



●展開イメージ

- ・五感で感じるみどりのアクティビティを展開
- ・みどりをもっとアクティブに、みどりの新しい価値の創出





(等々力緑地について)

- ・正面広場や等々力球場、催し物広場等のオープンスペースや、21世紀の森、ふるさとの森等の緑地内のみどりを繋ぐ動線をメインルートに、緑地内の施設を活用した会場とする。

(展開イメージ)

- ・五感を刺激する体験・体感をテーマにした展示等を展開する。
- ・企業やスポーツ団体等との連携により、みどりに囲まれた空間で、スポーツやアクティビティを楽しむ取組を展開する。
- ・多摩川や公園で活動する市民等との連携により、みどりや水辺等を活かした取組を展開する。

工) 会場計画図

-  花の装飾
-  メインルート
-  サブルート
-  イベントスペース

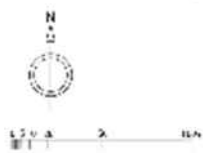


Active Garden
 「五感を刺激するみどり」多彩なアイデアが織りなす体験・体感型ガーデンを設置

全国にとどろけ！みんなの花畑
 エントランスとして花のおもてなしを展開

水面を彩るウォーターガーデン
 季節の花による等々力緑地ならではの水辺を使った演出

ロングボーダーガーデン
 水辺空間とのボーダーであることを意識したナチュラルガーデンを市民協働で制作



5 会場

オ) 等々力会場の取組

① Active Garden ～ 多彩なアイデアが織りなす五感を刺激する体験・体感型インスタレーション～

- ・『「見る緑」から「**五感を刺激するみどり**」へ。』をテーマ
- ・様々な**アイデア・ノウハウを有する企業・団体**や、これからの**未来を担う若者等と協働**によりガーデンを制作

開催前 企業・団体や若者との協働によりガーデンを制作

秋開催 五感を刺激するみどりをテーマに体験・体感型のインスタレーションを展開

春開催 秋の開催をきっかけに集結した企業・団体等の参加によりガーデンを再構築

レガシー ガーデンの一部を地域の公園に展示し、企業・団体等の連携による新たな協働の取組が展開



② ロングボーダーガーデン ～水際を彩る延長100mのナチュラルガーデン～

- ・水辺空間に**ナチュラルガーデンを市民協働**で制作
- ・『野原を歩く』ことを楽しませる**小径を創り**、「**触覚**」や「**嗅覚**」を楽しませる**五感の仕掛け**
- ・多摩川の植物を紹介する**ボタニカルアートを点在**させ、**多摩川へのアプローチを演出**

開催前 地元の活動団体等と協働による花壇の検討、ガーデンの制作

秋開催 水辺空間とマッチしたガーデンを演出。小道を歩く体験を通じて5感の仕掛けを提供

春開催 春の草花を中心としたガーデンの演出。活動団体等による管理の継続

レガシー 等々力緑地の新たなみどりのカタチを継承し、ガーデンが地域の憩いの場、コミュニティの場となる



※イメージ

5 会場

③ 水面を彩るウォーターガーデン

- ・**季節の花を活用**し、等々力緑地の釣池の水辺空間を彩る演出
- ・**小中学校や保育園等が参加**して作った花を活用

開催前 → 企業や団体等と協働した水面緑化の制作

秋開催 → 秋の花の彩りによる水面の修景

春開催 → 協働で育てた春の花で水面を演出

レガシー → 水辺の修景をきっかけに、水とみどりの魅力を実感し、生活を豊かにしていく



※イメージ

④ 全国にとどろけ！みんなの花畑 ～ Green For All Garden ～

- ・**等々力緑地のエントランス**に、**小中学校や保育園・幼稚園等が参加**して作った花を用いた花畑を創出
- ・エントランスにふさわしい**花畑のおもてなし**と、**フォトスポット等の仕掛け**を展開

開催前 → 小中学校や保育園・幼稚園等が参加して花苗の育成と植え付けを実施

秋開催 → 等々力緑地のエントランスとして花のおもてなしを展開

春開催 → 小中学校等と春の花へと植え替えを実施し、春の花のおもてなしを展開

レガシー → 花育・緑育の推進、花を用いた地域の彩りづくり・コミュニティ形成



※イメージ

5 会場

Ⅰ 生田緑地・エリア

ア) エリアの展開イメージ

コンセプト | 「文化・歴史×みどり」

まちなかに突然現れる市内随一の緑の宝庫と秘密の花園、みどりの世界に吸い込まれていく

(エリアについて)

- ・小田急線「向ヶ丘遊園駅」周辺及びJR南武線・小田急線「登戸駅」周辺から生田緑地東口と生田緑地ばら苑に至るまでの動線部分とします。

(エリアの特色)

- ・向ヶ丘遊園駅・登戸駅周辺では区画整理事業により新しいまちづくりが展開され、試験的に公共空間の活用等が行われています。
- ・向ヶ丘遊園駅から生田緑地に向かう途中では、商店街によるお祭りや、ばら苑アクセスロードにおけるバラの育成管理等、地域の取組が展開されています。

(展開イメージ)

○歩いて楽しめる空間づくり

- ・周辺の地元町会や商店街等と連携し、協働の花壇づくりや公共空間の活用を展開し、歩いて楽しめる空間づくりを展開します。

○会場間のアクセス向上

- ・会場間の移動をサポートするため、マイクロバス等による運行を行います。
- ・会場間や駅と会場の行き来がしやすくなるような誘導や案内の工夫を図ります。



登戸・遊園ミライバ ハレの日2022



生田緑地ばら苑アクセスロード

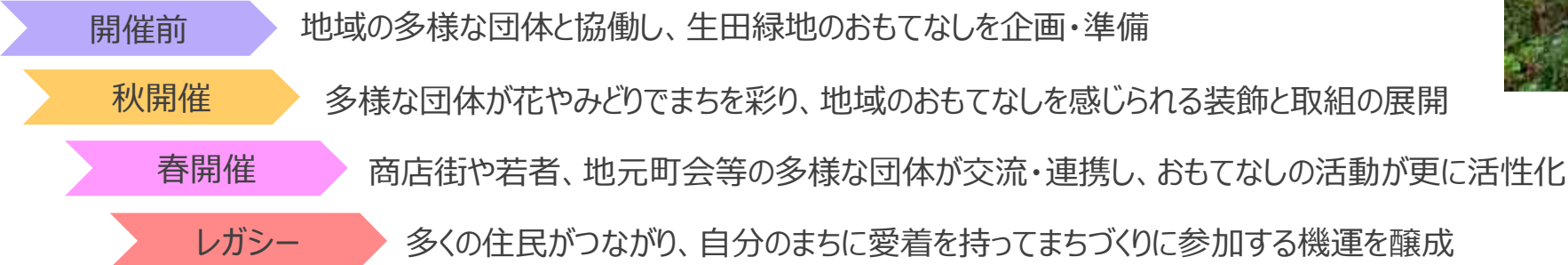
イ) エリアの取組

① 駅から生田緑地会場までのおもてなし — 地域の多様な団体による花とみどりの創出

- ・駅前から生田緑地を感じる緑の修景と協働によるおもてなしを展開
- ・地元の大学と連携し、フォトスポット等の創出
- ・会場までの沿道にて、周辺の町会と連携した花のおもてなしを展開



イメージ【ベンチの装飾】

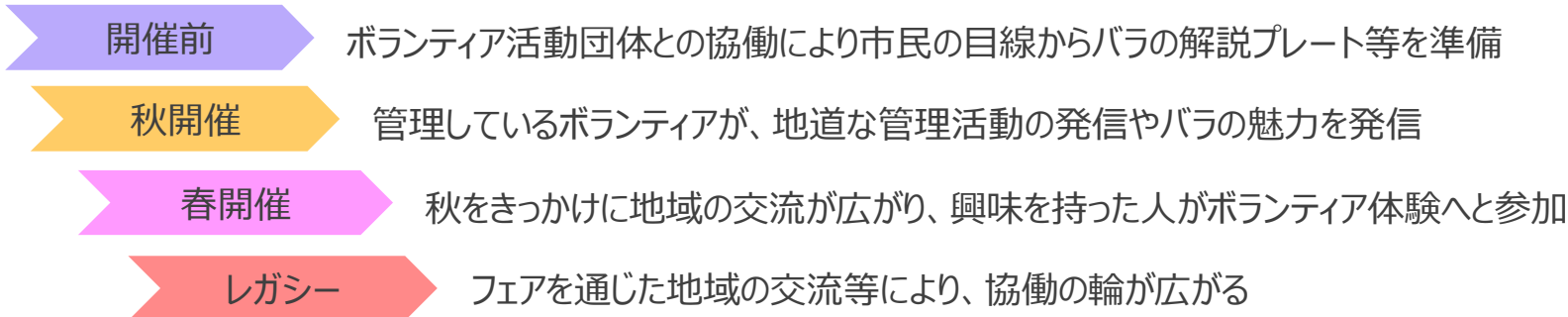


② ばら苑アクセスロード — ばらを楽しみながらばら苑までのわくわく感の創出

- ・ボランティア活動団体と連携し、育成管理しているバラの解説プレートの設置など、おもてなしの取組の展開
- ・地道な管理活動の発信や、地域の交流等により、協働の輪を広げていききっかけづくり



イメージ【手作りの植物プレート】



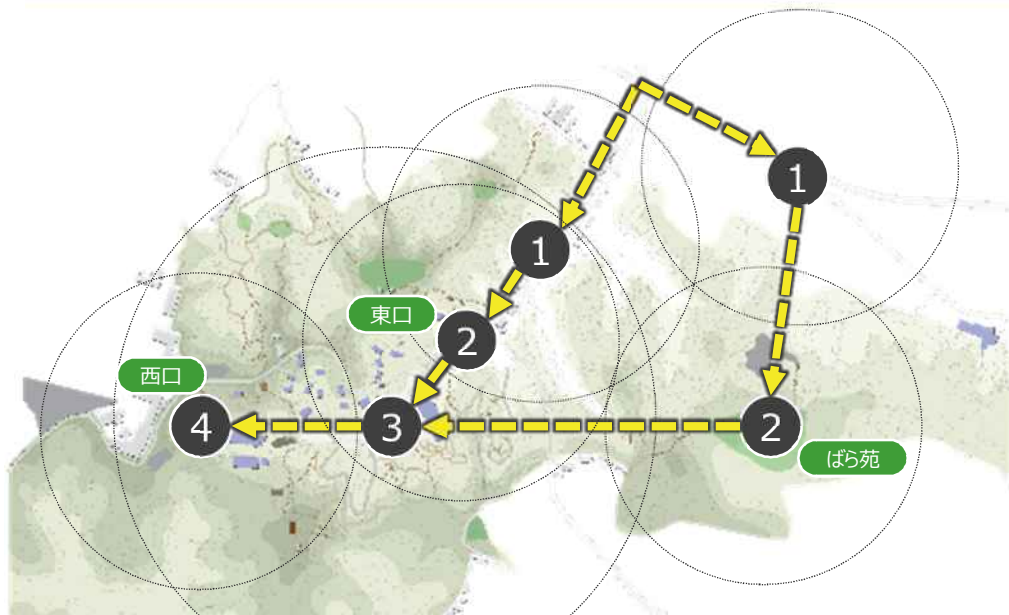
ウ) 生田緑地における展開イメージ

●ストーリー

市内随一の緑の宝庫から、文化・歴史を学び、みどりに触れてみたくなる
～花のもてなしにより、地域の人々の想いを感じながら会場へ到着～

- 1 市民によって育てられたまちなかの花・みどりを眺めながら歩みを進める
- 2 市内随一の緑の宝庫と秘密の花園が現れる
- 3 人と自然の関わりによって育まれたみどりの文化・歴史を学ぶ
- 4 自然を感じ、楽しむ体験を通じて、自然の中で活動する楽しさや喜びを実感する

人と自然がつながることの大切さを学び、みどりに関わりたいという意識の芽生え



●展開イメージ

- ・緑豊かな緑地の中で、みどりの文化と歴史を学ぶ
- ・人と自然がつながることの大切さを実感し、市民活動によって守り育まれてきたみどりの価値を再認識

(生田緑地について)

- ・生田緑地東口から西口を繋ぐ動線をメインルートとしながら、秋はばら苑など、季節の魅力・特色に応じた緑地内の施設を活用した会場とします。

(展開イメージ)

- ・広大な生田緑地の各所で、豊かな自然資源を活かした出展展示を展開します。
- ・協働のプラットフォームが主体となり、生田緑地のみどりの価値や市民協働による緑地管理の歴史等を発信します。
- ・中央広場を拠点に、緑地内の施設と連携した魅力発信や、園内を散策してもらう機会をつくります。
- ・緑地内に自生する在来植物の保全や、ササ・タケ類等については、資源として活用していきます。

工) 会場計画図

東口～日本民家園～中央広場
 タケ材を活用した空間演出と資源の活用の発信



差し替え予定

生田緑地ばら苑
 ばら苑の歴史を紐解きながら、新たなばら苑の魅力づくりを市民協働によりチャレンジ



差し替え予定

メタセコイア林～岡本太郎美術館～西口広場
 緑地の資源を活用し、自然を感じ、楽しむ体験の展開

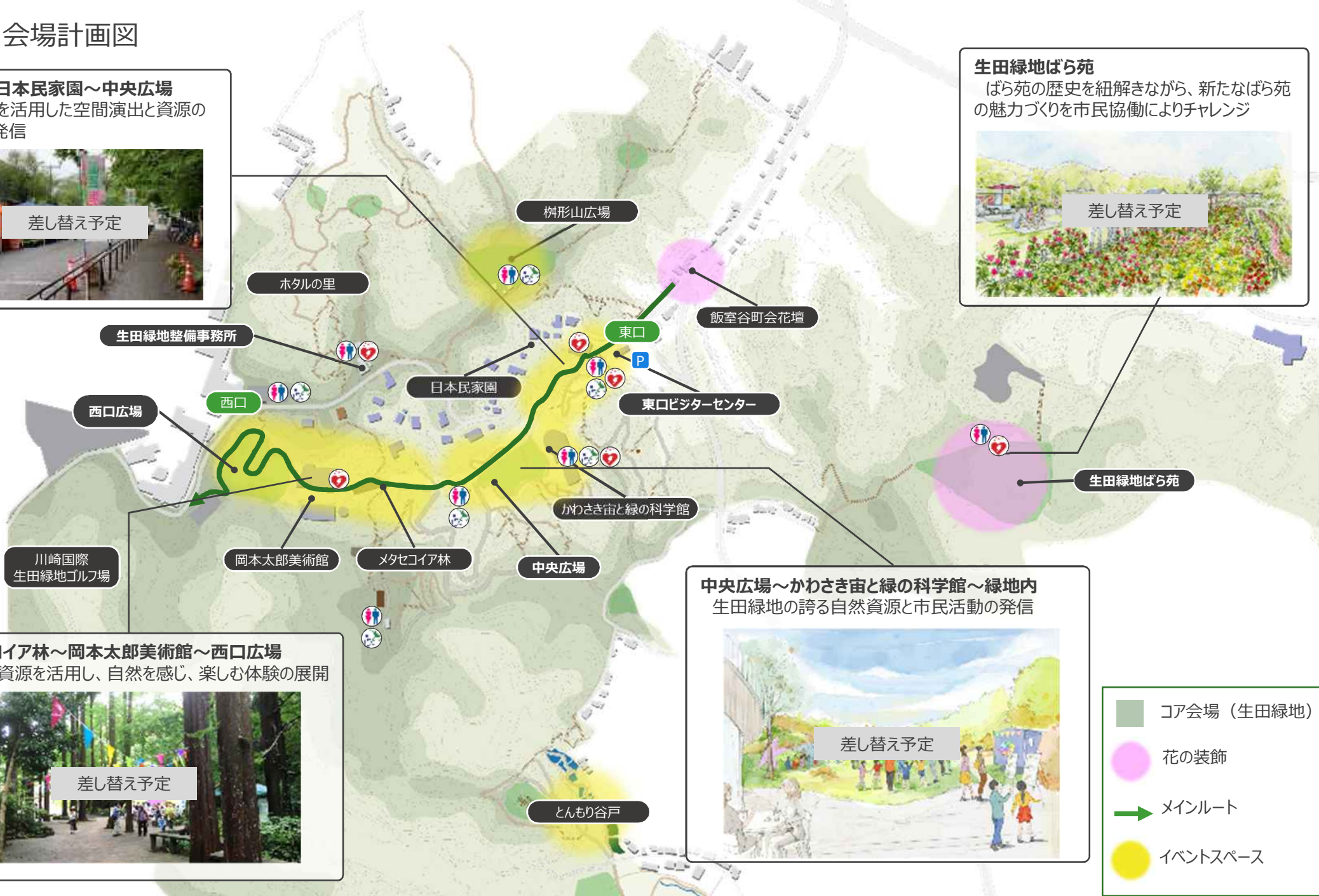


差し替え予定

中央広場～かわさき宙と緑の科学館～緑地内
 生田緑地の誇る自然資源と市民活動の発信



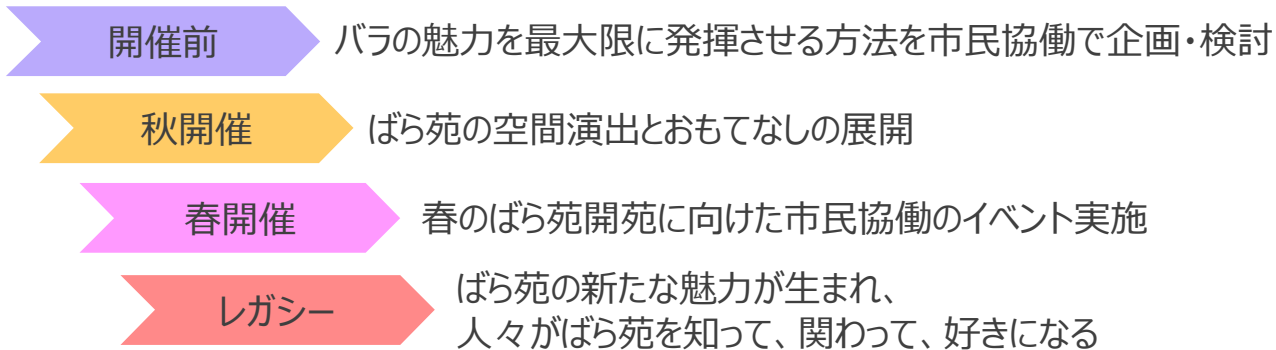
差し替え予定



- コア会場 (生田緑地)
- 花の装飾
- メインルート
- イベントスペース

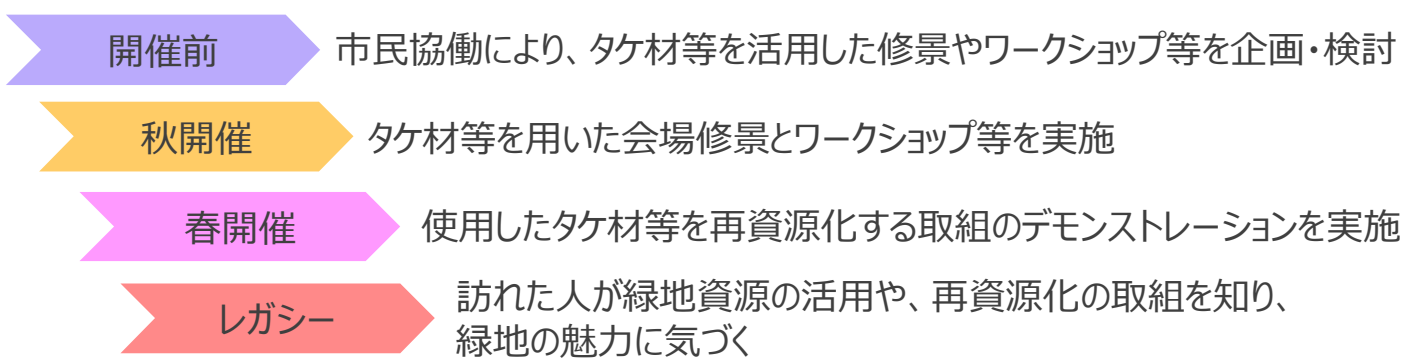
① 生田緑地ばら苑 — ばら苑の歴史を紐解きながら、新たなばら苑の魅力づくりを市民協働によりチャレンジ

- ・剪定した花を用いた修景や、パーゴラを用いた彩りづくり、一輪のバラを愛でる仕掛けなど、**新たなばら苑の魅力を創出する空間演出**を展開
- ・ばら苑や、バラの文化・歴史を伝えるためのパネル展等を市民協働により展開



② 東口～日本民家園～中央広場 — タケ材等の緑地資源を活用した空間演出

- ・**緑地管理で発生するタケ材等を活用**し、アーチや灯籠等による空間づくりを展開
- ・伝統的な活用を体験型ワークショップにより発信すると共に、**使用した材を再資源化する取組**についても発信



③ 中央広場～かわさき宙と緑の科学館～緑地内 — 生田緑地の誇る自然資源と市民活動の発信

- ・**生田緑地の自然の魅力**を植物画等の展示を通じて発信し、緑地内へと誘う仕掛けを展開
- ・**生田緑地の市民活動の歩み**を踏まえながら、ナラ枯れなど、**現在直面している課題を取り上げた展示**や、シンポジウム、ガイドツアー等を展開。

開催前 → 市民協働により、来場者へ伝えていきたい内容や発信方法について企画・検討

秋開催 → 展示やシンポジウム等を通じて自然資源と市民活動の発信、課題の共有化

春開催 → 秋に参加した人にも関わってもらいながら、課題解決に向けてのキックオフ

レガシー → フェアの取組をきっかけとして、緑地の活動を支える新たな担い手を発掘



④ メタセコイア林～岡本太郎美術館～西口広場 — 緑地の資源を活用し、自然を感じ、楽しむ体験の展開

- ・**ナラ枯れ樹木を活用**したチェーンソーアートや、ベンチ展示等を展開します。
- ・メタセコイア林における藍染装飾や、アートワークショップ等の開催により、自然を感じ、楽しむ体験を通じて、**自然の中で活動する楽しさや喜びを提供**。

開催前 → 市民協働により、間伐材等の緑地資源の活用について検討

秋開催 → アート展示やワークショップ等の開催

春開催 → 展示したベンチ等を緑地内の各地へと移設し展開

レガシー → より多くの市民が緑地の管理を学び、知識を得て、関わるようになる



5 会場

オ (仮) まちなかみどりスポット (協賛・連携会場)

ア) (仮) まちなかみどりスポットの展開イメージ

- ・市内の様々なみどりとオープンスペースを活用し、日常の活動や取組をフェアを通じて発信し、市内全域でフェアを盛り上げる一体感を醸成します。
- ・「市民総参加の実現に向けた考え方」を踏まえた (仮) まちなかみどりスポットの考え方として、令和5年度から魅力的なコンテンツ等の周知と広報を一体的に行い、取組を知り、関わるきっかけとなるよう積極的に取組を進めていきます。



例：多様な主体による利活用が行われている公園
(橋公園・王禅寺ふるさと公園)



例：市民活動が行われている緑地
(菅生緑地)



例：特色のある公園
(夢見ヶ崎公園)

イ) 主な（仮）まちなかみどりスポット（協賛・連携会場）イメージ

各地域における市民、企業、地域団体等の多様な主体と協働・連携した取組にスポットをあて、それぞれの特色を活かした取組を市内全域で展開します。

（例）公園緑地、河川、駅前広場、道路空間、庁舎、商業施設・商店街、民有地など



(4) 出展展示

ア 展示の基本的な考え方・展開イメージ

- 各会場のコンセプトに合わせた展示とし、フェア開催前や育成期の協働の取組と一体的に行います。
 - 会場となる公園の指定管理者と協議調整し、運用や育成期の取り扱いなどについて検討します。
 - 秋と春の2つの期間を設定するかわさきフェアにおいて、内容に応じてより適切な展示期間を設定します。
- なお、秋と春の2期間ともに展開する展示については、原則として規模や場所を秋と春で共通とし、季節を感じる展示を行います。

○「川崎のみどり」の歴史とこれからのみどりを考えるきっかけとなる展示

- ・川崎のみどりの歴史やこれからの川崎のみどりについて、パネル等を用いて展示し、次の100年に向け川崎市が目指す環境先進都市のあるべき姿を市民とともに考える展示とします。

○壁面緑化などみどりの新しい技術の発信

- ・様々な素材や手法を活用し実際の壁面を使った色鮮やかな壁面緑化を、平易でわかりやすい言葉を使った解説板を設置し、都市緑化の技術の進歩を実感させる展示とします。



写真：2023仙台フェア展示事例
(仙台ばら会の展示)



写真：2023仙台フェア展示事例
(室内緑化の展示)



写真：2023仙台フェア事例
(案内所の壁面緑化)



写真：2023仙台フェア展示事例
(壁面緑化の解説)

イ 出展の基本的な考え方・展開イメージ

- コンテストの出展は、富士見公園コア会場内で秋開催時期に実施します。
- 各コンテストの審査は秋開催の開始前とし、表彰式を閉会式で実施します。
- 春開催期間の展開については、市民が参画する出展作品の展示や出展内容等の充実も含めて工夫します。

①自治体花壇出展

- ・富士見公園までのルート上にある富士見通りに、おもてなし花壇として出展します。

②企業・団体等 庭園等出展コンテスト

- ・造園や園芸関係の企業や団体等からの出展を令和5年秋頃から順次募ります。
- ・テーマは「都市を彩る私たちのみどり」とし、住まいや仕事の空間、建物の壁など3つのタイプを設定します。

③ハンギングバスケット等出展コンテスト

- ・まちの花飾りの一つの手法である「ハンギングバスケット」について、沿道を華やかに彩る作品を展示します。
- ・作品はラティスフェンス等への壁掛けタイプとします。

④造園団体等との連携

- ・高校生を対象とした「全国造園デザインコンクール（一般社団法人日本造園建設業協会主催）」の緑化フェア「みどりの広場」部門受賞作品を作庭し展示します。



写真：2023仙台フェア出展



写真：2023仙台フェア出展



写真：2023仙台フェア出展



写真：2020ひろしまフェア出展



写真：2019信州フェア出展

(6) 植物調達・管理

ア かわさきフェアで使用する花・植物の考え方

ア) 『かわさきの植物』の活用

○区の花・区の木を活用

・各区と連携しながら、100周年の1年を通じて様々なイベント等において区の花・区の木を活用します。

○地域の植物の活用

- ・植物の調達は、『市内産→県内産→県外産』の順で実施します。
- ・市民協働による花苗育成を展開し、会場の花壇等に活用します。
- ・市内産花卉について発信・PRします。

○既存の植物の活用

・既に植栽されている草花や樹木等の魅力を活かし、引き立たせるような活用を行います。

イ) 『市民生活に取り入れやすい花・植物』の選定

○初心者にも育てやすい花・植物の選定

・フェアをきっかけに育ててみたいとなる、初心者にも育てやすい花・植物を活用します。

○様々な環境・ニーズに合わせた花・植物の選定

・屋内、ベランダ、オフィスなど、様々な環境や、市民のニーズに合わせた花・植物を活用します。

○持続可能な景観づくりに向けた花・植物の選定

・フェア後も残るかわさきの景観づくりに向け、毎年、花を着け、生き続ける多年草や樹木類等についても活用します。



市内産花卉の活用
(例：パンジー・ビオラ/ガーデンシクラメン)



市民協働による花苗育成
・たねダンゴによる育成 (例：マリーゴールド/ジニア/ピンカ)
・牛乳パックによるポット (例：キンギョソウ/ヤグルマギク/リナリア)



既存植物の活用
(例：富士見のソメイヨシノ/等々力のハナモモ・サトザクラ・ハマダイコン/生田のバラ・スミレ類)



様々な環境・ニーズに合わせた植物の選定例
・バイオフィリックデザイン (例：観葉植物/アーティフィシャルフラワー)
・キッチンガーデン・エディブルフラワー (例：ハーブ類/野菜)



持続可能な景観づくりに向けた植物の選定例
・宿根草ガーデン (例：グラス類/球根植物)
・グランドカバープランツ (例：ヒューケラ/ユーフォルビア/シバザクラ)

イ 植物調達・管理の考え方

ア) 植物の調達

○市民協働による花苗育成

・小中学校等の多様な主体との連携により、市内全域にて、協働による花苗育成を展開します。

○二期開催への対応

・かわさきフェアは、秋と春の2期開催となることから、それぞれの時期毎に植物を調達します。
・秋開催については、夏から秋にかけて開花する植物、春開催については秋から冬に開花する植物や、早春から開花する植物を調達します。

○安定的かつ計画的な植物調達

・かわさきフェアでは、短期間に多品種・多品目の植物を大量に使用するため、市内生産団体等から構成される植物調達協議会を組織し、市内外から各会場に合致した品種・規格・品質の植物を安定的かつ計画的に調達します。

イ) 植物の植え付け

○市民協働による植え付け

・協働推進計画と会場管理運営計画と連携した植物ボランティア等が花苗の植え付け等を行い、会場づくりに積極的に参加できるようにします。

○専門性・安全性の確保

・土壌改良や専門機材の使用など、専門性、安全性の確保が必要となる部分においては、植物調達協議会と連携した植え付けを実施します。

ウ) 植物の管理

○市民協働による植物の管理

・かわさきフェア会場の植え付けや植物管理（植替え・補植・灌水・草刈り等）の実施に当たっては、開催前から植物管理のボランティアを広く募集すると共に、市内で緑化活動を進めている様々な団体との協働によって実施します。

○点検・補植

・気象害や病虫害の発生など植栽について不具合が発生した場合は、その情報を速やかに実行委員会で集約し、適切に対応を図ります。
・会場を期間中美しく演出し、季節に合わせて計画的な植替え等の維持管理を行います。

○植物の状況調査

・かわさきフェアのみどころ等を案内する情報発信に活かすことができるよう、植物管理の際に、会場内の植物の開花状況を調査します。

○植物の再利用

・かわさきフェアで使用した植物をフェア終了後に、公園や市内施設等へ移植・配布するなどの活用を図ります。

(6) 行催事

ア 基本的な考え方

- かわさきフェアの節目に開催し、ハレの日への期待感を高め、かわさきフェアの意義や理念を伝えます。
- 市制100周年の象徴的事業として、これまで培ってきた川崎の魅力や強みを発信します。
- 市民、団体、企業等と連携し、市民総参加で、フェアを盛り上げます。
- 川崎の市民協働による活動の成果を発信するとともに、既存の催事や地域の取組と連携した市民発信型のイベント等を展開します。

イ 展開イメージ

- 川崎の多様性あふれる魅力や強みを市内、全国に発信
- 市民、企業等が主体となったこれまでの取組の成果を発信するコンクール、シンポジウムなどの開催
- かわさきフェア開催前から、市民、企業、団体等と連携した取組による普及啓発、機運醸成
- 他自治体等の参画による自治体間のネットワーク形成・交流に向けた取組 等



(例) 開会式 (R3北海道フェア)



(例) 川崎国際環境技術展



(例) わがまち花と緑のコンクール

ウ 行催事区分

区分		内容	開催場所	
ア) 主催 行催事	プレイベント	かわさきフェア開催に向けた機運醸成、市民、団体、企業等の参加意識向上のためのイベント	川崎市内	
	公式 行事	オープニングセレモニー	フェアのハレの日の始まりを記念し、実施するアトラクションやテープカット等の行事	富士見公園 など
		総合開会式	フェアのハレの日の開会を記念し、開催する式典	カルッツかわさき
		総合閉会式	フェアのハレの日の閉会にあわせて開催する式典	カルッツかわさき
		秋・春期セレモニー	秋期のクロージング、春期オープニングの節目に開催する行事	富士見公園 など
		全国都市緑化祭	全国都市緑化フェアの中心的行事（都市緑化宣言、コンテスト表彰、植樹祭の開催等）※秋開催中のうちの1日開催	カルッツかわさき 富士見公園 など
	シンポジウム・フォーラム	川崎らしい都市の中のみどりの価値を発信し、みどりのまちづくりに向けたみどりのあり方などを考えるシンポジウム など	カルッツかわさきを想定	
	コンテスト	企業、団体等の出展作品の出来栄えや技術などを競う催し（庭園出展コンテスト、ハンギングバスケットコンテスト など）	富士見公園	
	屋内外イベント	より多くの人々がみどりに触れ、楽しめる機会となる各種イベント（イベント、ワークショップ、企画展示、講習会）など	富士見公園、等々力緑地、生田緑地	
イ) その他	連携イベント など	・市民、団体、企業、行政等と実行委員会が連携し、フェアを盛り上げる既存又は新規イベント ・市民、団体、企業、行政等が主催し、実行委員会がPR等の面で応援して開催するイベント 等		

8 行催事

Ⅰ 実施内容（案）

ア) 主催行催事

○イベント

かわさきフェアの機運醸成や市民総参加に向けた参加意識の向上を図るため、フェアのハレの日を想起させる展示やトークイベントを実施し、期待感を高めるとともに、みどりのまちづくりに向けて、みどりが身近にあるライフスタイルの提案などを行うイベントを開催します。

- 日程：令和5年11月11日（土）～25日（土）予定
- プログラム：
 - ・ 11/11（土）、12（日）
市内の生産者や花卉農家などと、川崎の花や緑、農の魅力やみどりを取り入れた暮らしなどをテーマにトークイベントを実施
 - ・ 11/11（土）～25（土）
川崎のみどりの歴史や各区の魅力の展示 など
- 会場：川崎市役所本庁舎



川崎市役所本庁舎アトリウム



ローズフェアの様子
@横浜市役所アトリウム

○公式行事

●オープニングセレモニー

日程：令和6年10月19日（土）

かわさきフェアの始まりを告げるとともに、ハレの日の期待感を高めるため、川崎の魅力や文化を発信するアトラクションやテープカット等を実施します。

- ・参加者：地元関係者、イベント関係者 など
- ・会場：富士見公園 など

<プログラムイメージ>

- (1) オープニングアトラクション：地元団体によるパフォーマンスで幕開け
- (2) 主催者挨拶
- (3) 関係者・来賓ご挨拶
- (4) テープカット（フォトセッション）



テープカットセレモニーの様子
(R3北海道フェア)



アトラクションの様子
(R2熊本フェア)

●総合開会式（日程：令和6年10月19日（土））

市民総参加でつくりあげ、盛り上げるフェアのハレの日の開会を記念し、実行委員会委員、庭園出展者、協力団体、行政関係者（国、県、市）等を招待して式典を行います。

- ・プログラム：オープニングアトラクション、開会宣言、主催者挨拶、来賓紹介、来賓祝辞、表彰式、閉会挨拶 など
- ・参加者：実行委員会参画団体、地元関係者、関係機関（国、県、市） など
- ・会場：カルッツかわさき

●総合閉会式（日程：令和7年4月13日（日））

市民総参加でつくりあげ、盛り上げたフェアのハレの日を振り返り、市民、団体、企業等と一緒にフィナーレを飾るとともに、フェア以降のみどりのまちづくりに向けた節目とする。また、次期フェア開催地への引継ぎを行います。

- ・プログラム：オープニングアトラクション、主催者挨拶、来賓紹介、来賓祝辞、庭園出展コンテスト表彰式、フェア旗引継ぎ式、次期開催都市挨拶、閉会宣言 など
- ・参加者：実行委員会参画団体、地元関係者、関係機関（国、県、市） など
- ・会場：カルッツかわさき



開会式の様子
(R3北海道フェア)



開会式アトラクションの様子
(R3北海道フェア)



閉会式アトラクションの様子
(R2熊本フェア)



引継ぎ式の様子
(R3北海道フェア)

●秋・春期セレモニー

○秋期クロージングセレモニー

(日程：令和6年11月17日(日))

かわさきフェアの秋開催を振り返り、締めくくるとともに、春開催へつながる節目として、川崎の魅力や文化を発信するアトラクションや春開催に向けた演出等を実施し、秋から春へと気運をつなぎます。

- ・プログラム：地元関係者等によるアトラクション、主催者挨拶、春開催に向けた演出 など
- ・参加者：実行委員会参画団体、地元関係者、イベント関係者 など
- ・会場：富士見公園 など

○春期オープニングセレモニー

(日程：令和7年3月22日(土))

各コア会場においてアトラクション等を通じ、かわさきフェア秋開催の終了から冬を超え、春の訪れを感じつつ、春開催の期待感を高めます。

- ・プログラム：アトラクション、主催者挨拶、テープカット、秋から春へのつながりの演出 など
- ・参加者：実行委員会参画団体、地元関係者、イベント関係者 など
- ・会場：富士見公園 など

●全国都市緑化祭 秋開催期間中の1日

<プログラムイメージ>

- (1) 主催者ご挨拶
- (2) アトラクション：地元団体によるパフォーマンス
- (3) 春へ繋がる演出

春フェアにバトンを渡すような演出で秋フェアを締める

例) ・市民と共に花の苗を植える → 春フェアの時期に咲く
・地元小学生がみどりへの想いを寄せ書きをした記念旗を主催者へ贈呈 → 春フェアの会場にも掲出する 等



<プログラムイメージ>

- (1) オープニングアトラクション
：地元団体によるパフォーマンスで幕開け
- (2) 主催者挨拶
- (3) 関係者・来賓ご挨拶
- (4) 秋からの継承演出
- (5) テープカット (フォトセッション)

秋フェアのクローズセレモニーから繋がる演出 (継承)

例) 秋に植えた花のお披露目、記念旗を掲げる演出などを通して、継続した緑化への取り組みを印象付ける

●シンポジウム・フォーラム（日程：フェア期間内）

川崎らしい都市のみどりの価値を発信する機会として、市民協働による活動の成果や市民のライフスタイルに溶け込むみどりのあり方について、川崎にゆかりのある方や有識者、ゲスト等によるシンポジウムを開催します。

<プログラムイメージ>

- (1) 主催者挨拶
- (2) 基調講演
- (3) トークセッション、ワークショップ等のコンテンツ

<テーマイメージ>

●市民に対してわかりやすく、身近な話題として緑化の重要性を伝える

例) 緑を生かした街づくりに取り組む有識者、庭園デザイナー、ランドスケープデザイナー など

●生活の中で緑化への発見・理解に繋がる企画

例) ガーデニングワークショップ、国土交通省や川崎市の公園・緑化担当者による地域の取り組み紹介 など

●中長期的な緑化への取り組み、より理解を深めるための知識を得る

例) 緑化を通して環境問題に取り組む有識者、関連分野の研究の紹介 など

●フェア後の具体的な継続アクションに繋がる企画

例) 森づくり・緑化の活動を行う市民団体の代表によるトークショー、SDGsにまつわるワークショップ など

●屋内外イベント

○屋内イベント

- ・屋内における緑化の魅力を伝え、来場者の緑化に対する意識や関心を高めます。
- ・川崎市の市民活動の紹介や作品の展示を行います。
<富士見エリアの例>
- ・川崎のみどりの歴史を振り返る展示や最先端の室内緑化（富士見公園パークセンター）
- ・本庁舎アトリウムを活用した展示（川崎市役所本庁舎）

○屋外イベント

- ・みどりの新たな活用や、みどりを活かしたライフスタイル提案など、より多く人がみどりに触れ、楽しめるようなイベント等を実施します。
- ・川崎市の市民活動の紹介や作品の展示を行います。
<富士見エリアの例>
- ・夜の公園等を活用した健全な夜遊び
- <等々力エリアの例>
- ・等々力緑地再編整備事業者と連携したイベント（等々力緑地催し物広場） など

○その他

- ・より多くの市民に都市の中のみどりの知ってもらうため、企業等の持つ様々なアイデアや先進的な取組等を活用したイベント等を企画します。

イ) その他（連携イベントなど）

- ・市民、団体、企業、行政等と実行委員会が連携し、フェアを盛り上げる既存又は新規イベント



（例）花と緑の市民フェア 等



（例）Vege & Art Fes 等

- ・市民、団体、企業、行政等が主催する各種イベントやシンポジウム・フォーラム 等



（例）多摩・三浦丘陵の市民と緑をつなぐシンポジウム



（例）わがまち花と緑のコンクール

- （例）全国造園デザインコンクール（一般社団法人日本造園建設業協会）
造園技術フォーラム（一般社団法人日本造園建設業協会） など

(8) 飲食・物販

ア 基本的な考え方

- 飲食店や生産者等と連携・協力して、地域の農産物や特産品等を使用した川崎ならではの魅力ある飲食・物販サービスを提供します。
- SDGsの要素を取り込んだ衛生面や環境面に配慮したサービスを提供します。
- みどりを生活に取り入れる仕掛けや仕組みを取り入れます。
- 市民が楽しく参加できる様々なメニューを用意します。



「かわさきそだち」などを活用したかわさきフェアならではの飲食メニューの提供



「川崎市市制100周年」応援デザイン「ニューたんめん」カップめんの全国発売 (写真提供：サンヨー食品株式会社)



市内名産品

イ 展開イメージ

(飲食)

- ・川崎産の農産物等を使用した料理や川崎ならではの食文化の発信につながるご当地グルメ等の提供
- ・容器のリユース・リサイクルなどの環境に配慮した取組の推進
- ・エリア内の商店街や飲食店等をめぐりながら、オリジナルメニューを堪能するなど、川崎の食の魅力を体感できるプログラムの提供 等
- ・パンフレット及び公式HPに店舗情報を記載し既存店舗への誘導 等

(物販)

- ・生産者や飲食店、商店街や民間事業者等と連携した川崎の特産品の提供 等



会場周辺の既存店舗と連携した飲食等の提供

◆想定される出店者

- 川崎市内営業飲食店
- JAセレサ川崎
- 川崎ものづくりブランド認定品
- 園芸用品や自然素材を使用した工芸品などを扱う民間事業者
- 環境面で評価を得ている民間事業者
- 学校等
- 市内障がい者支援団体、福祉団体等



生産者等と連携した「かわさきそだち」や県内産野菜の販売

(9) 会場運営・管理

ア 会場運営・管理

ア) 基本的な考え方

- 市民、地域の活動団体、NPO、学校、企業等の多様な主体と連携・協働した会場運営の手法を導入し、環境や安全面に配慮するとともに、誰もが快適に参加できるような適切な会場運営を行います。
- 市民等が広く参加できるボランティア活動等のメニューを用意し、会場運営の様々な場面に関わってもらう機会を創出します。
- 様々な技術やノウハウを有する企業や公園施設の指定管理者等と連携し効率的な会場運営、環境面に配慮した取組を推進します。
- 環境先進都市にふさわしい、環境負荷低減を意識した会場運営・管理を行います。

イ) 具体的な取組

● 共通事項

<会場運営>

- ・ 会場の案内所の開設時間は9：30～17：00とします。なお、夜間イベントを行う際は別途対応します。
- ・ 案内所等を設置し、車イスやベビーカーの貸出し、授乳室・救護室、情報発信などの来場者サービスを展開します。
- ・ 会場内を巡回し、来場者への案内及び会場内の情報収集を行います。
- ・ 障害者や高齢者、外国人等の様々な来場者が快適に各会場で過ごせるような場内環境を提供します。
- ・ タブレットや筆談ボードを活用し、手話・外国語通訳を必要とする来場者への対応を行います。
- ・ フェア全体の様々な情報を一元化し、「来場者向けの情報」や「関係者向けの情報」に整理をしてそれぞれに正確な情報提供を行うために、情報センターを富士見公園に配置します
- ・ 公園、道路の各施設の根拠法令、管理方針等に則り、適切に会場運営を図ります。
- ・ 最寄駅から会場までの回遊性を高めるために、駅前や歩道等にサインの設置を行います。

● 共通事項

<会場管理>

- ・ 快適で安全な空間を創出するために必要な運営業務の設定や来場者サービスの提供、各施設の設置を計画します。
- ・ 来場者に安全・安心・快適に楽しんでいただける会場維持のため、会場内の巡回、警備、救護体制、清掃計画、危機管理体制を策定し総合的な会場管理を行います。
- ・ 環境負荷低減に寄与する資材の使用や取組の発信を行います。
- ・ 市民等が広く「かわさきフェア」に参加できるボランティアの活動内容の構築を行い、来場者の皆様に親しみやすく温かみがあるサービスを提供します。
- ・ 会場内に案内所を配置し、会場案内等の情報提供や会場案内マップの配布等の来場者へのサービスを提供します。
- ・ 案内所には運営スタッフと共に、会場サービスボランティアを配置します。
- ・ 案内サービスの他、貸出所を併設し、貸出サービスを展開します。
- ・ 各会場にボランティア活動の拠点となるボランティアセンターを設置し、ボランティアの全体管理などを行います。
- ・ 施設の不具合を発見した場合は、安全措置を講ずるとともに、速やかに管理運営本部に連絡します。
- ・ かわさきフェア展示物周辺の清掃、会場内のトイレ清掃（消耗品補充含む）、休憩所・ベンチ等の清掃を行います。
- ・ 救護室にAEDを設置し、スタッフは事前にAEDの操作研修を行います。
- ・ SDGs の取組として、資源ごみのリサイクルを推進します。

ウ) 3会場別で展開する取組

● 富士見公園

<会場運営>

- ・ 3会場を統括する総括運営本部を教育文化会館に設置します。
- ・ カルッツかわさき内には、総合案内所を設置します。

<会場管理>

- ・ 土日祝日等の多客日については、JR川崎駅等にスタッフを配置し、情報提供を行います。
- ・ 救護室は、パークセンター内の救護室を活用します。



富士見公園会場 施設配置図

●等々力緑地

<会場運営>

- ・等々力球場のインフォメーションセンター内に、総合案内所を設置し、旧中部公園事務所内に現地運営本部を設置します。

<会場管理>

- ・土日祝日等の多客日については、武蔵小杉駅等にスタッフを配置し、情報提供を行います。
- ・等々力球場のインフォメーションセンター内に救護室を設置します。



等々力緑地会場 施設配置図

●生田緑地

<会場運営>

- ・東口ビジターセンター内に、総合案内所及び現地運営本部を設置します。
- ・来場者の生田緑地ばら苑と生田緑地中央地区との相互利用の利便性を向上し、より多くの集客に結びつけるため、秋の開催期間中、毎日生田緑地ばら苑を開苑し、入退場ができるようにします。

<会場管理>

- ・土日祝日等の多客日については、向ヶ丘遊園駅等にスタッフを配置し、情報提供を行います。
- ・総合案内所（東口ビジターセンター）に救護室を設置します。



生田緑地会場 施設配置図

ア 交通輸送

ア) 基本的な考え方

- 公共交通機関の利用を前提とし、来場者の誰もが、安心、安全、快適に最寄り駅からコア会場へ移動できるよう、みどりを感じながら、歩いて楽しめるおすすめルートを案内します。
- 富士見公園、等々力緑地、生田緑地に分かれるコア会場は、各会場を1日で移動するための個別の輸送手段は設定せず、それぞれの地域資源（エリア）を楽しんでもらえるよう案内します。
また、観光施策と連携し、コア会場間をつなぎ楽しみながら移動できるコンテンツを展開します。
- 地域特性や交通事情、環境への配慮を踏まえつつ、既存の公共交通機関に加え、公共交通を補完する交通サービスや会場内での移動をサポートする交通サービスを展開します。

イ) 具体的な取組

● 共通事項

〈最寄り駅からの来場〉

- ・花やみどりの視線誘導により、みどりを感じながら、歩いて会場にたどり着ける修景をします。
- ・最寄り駅から各会場への移動が円滑にできるよう誘導サインを設置します。
- ・バス、タクシー乗り場のわかりやすい案内を行います。

※身障者等の駐車場は公園内の既存駐車場を活用

〈多客日の対応〉

- ・最寄り駅等において、必要に応じスタッフや案内サポートボランティア、警備員を配置します。
- ・自転車来場について、シェアサイクル等の利用促進や臨時駐輪場所の確保などの対策を講じます。
- ・違法駐車対策やホームページ等における公共交通利用の呼びかけにより、一般交通への影響の軽減を図ります。

ア 交通輸送

ウ) 3会場別で展開する取組

○富士見公園

・路線バスの運行本数も多いことなどから、既存の路線バスを適切に案内します。

○等々力緑地

〈公共交通機関による来場〉

・会期中の土日祝日のイベントの実施内容に応じて、武蔵小杉駅から等々力緑地会場までスムーズに移動できるよう、既存バス路線の増便等の対応を予定します。

○生田緑地

〈公共交通機関による来場〉

・会期中の土日祝日のイベントの実施内容に応じて、向ヶ丘遊園駅から生田緑地会場（東口）までスムーズに移動できるよう、既存バス路線の増便等の対応を予定します。

〈会場内での移動をサポートする交通サービスの展開〉

・駅からのアクセスや会場内での移動をサポートするため、生田緑地ばら苑と生田緑地東口を繋ぐマイクロバスや、向ヶ丘遊園駅と生田緑地東口、西口を繋ぐ、環境に配慮したグリーンスローモビリティ等による運行を行います。

・会場内、特に生田緑地ばら苑との行き来がしやすくなるような誘導や案内の工夫を図ります。



富士見公園会場 来場ルート



等々力緑地会場 来場ルート



生田緑地会場 来場ルート